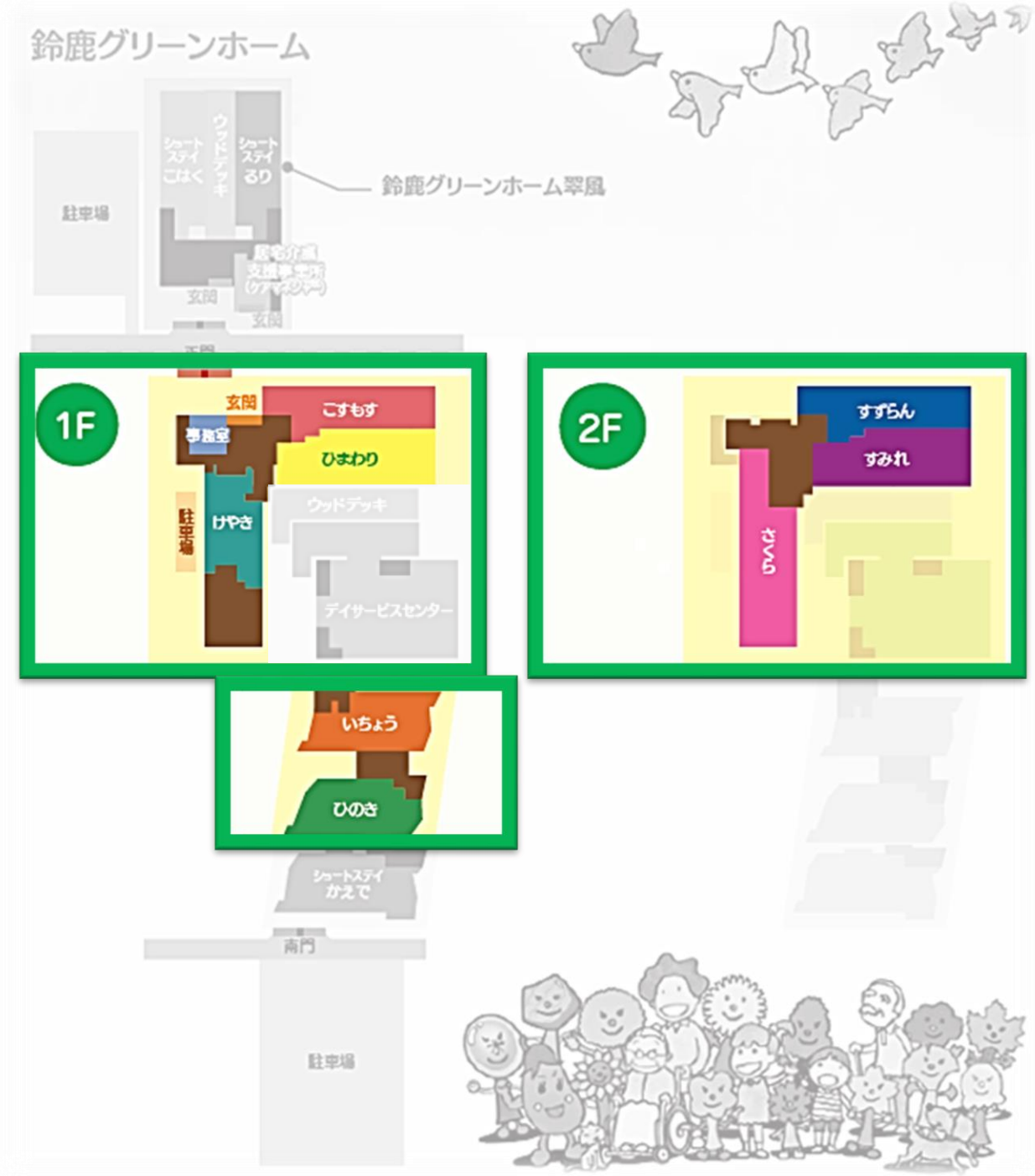
ご紹介資料

鈴鹿グリーンホームの
介護現場革新の取り組み





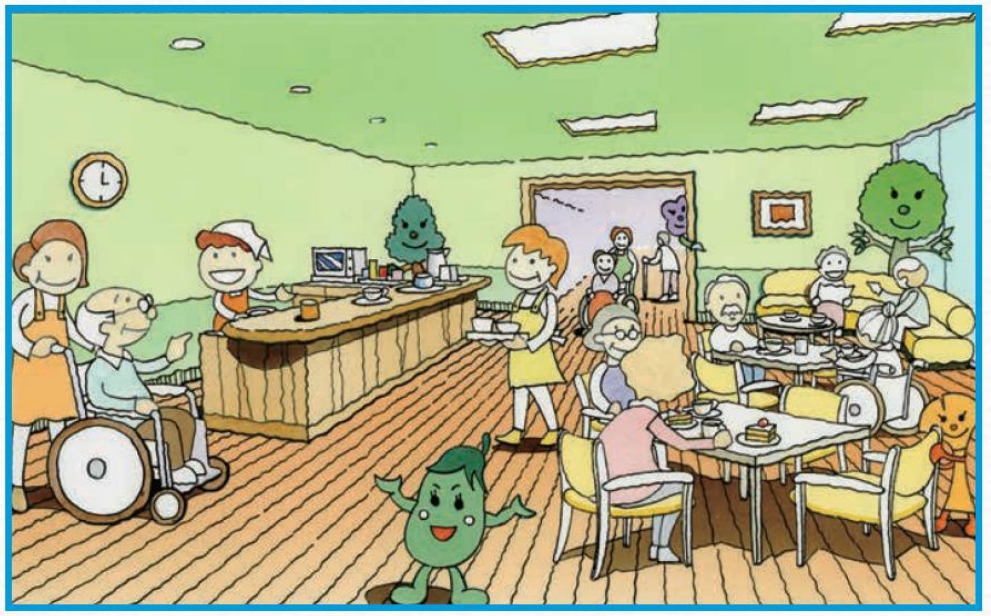


常に介護が必要で、ご自宅での生活が困難な方が入居し、個別ケアプラン（介護計画）に基づいた日常生活全般の支援を行います。（原則要介護3の方）

暮らす ➢**特別養護老人ホーム（ユニット型個室80床・8ユニット）**



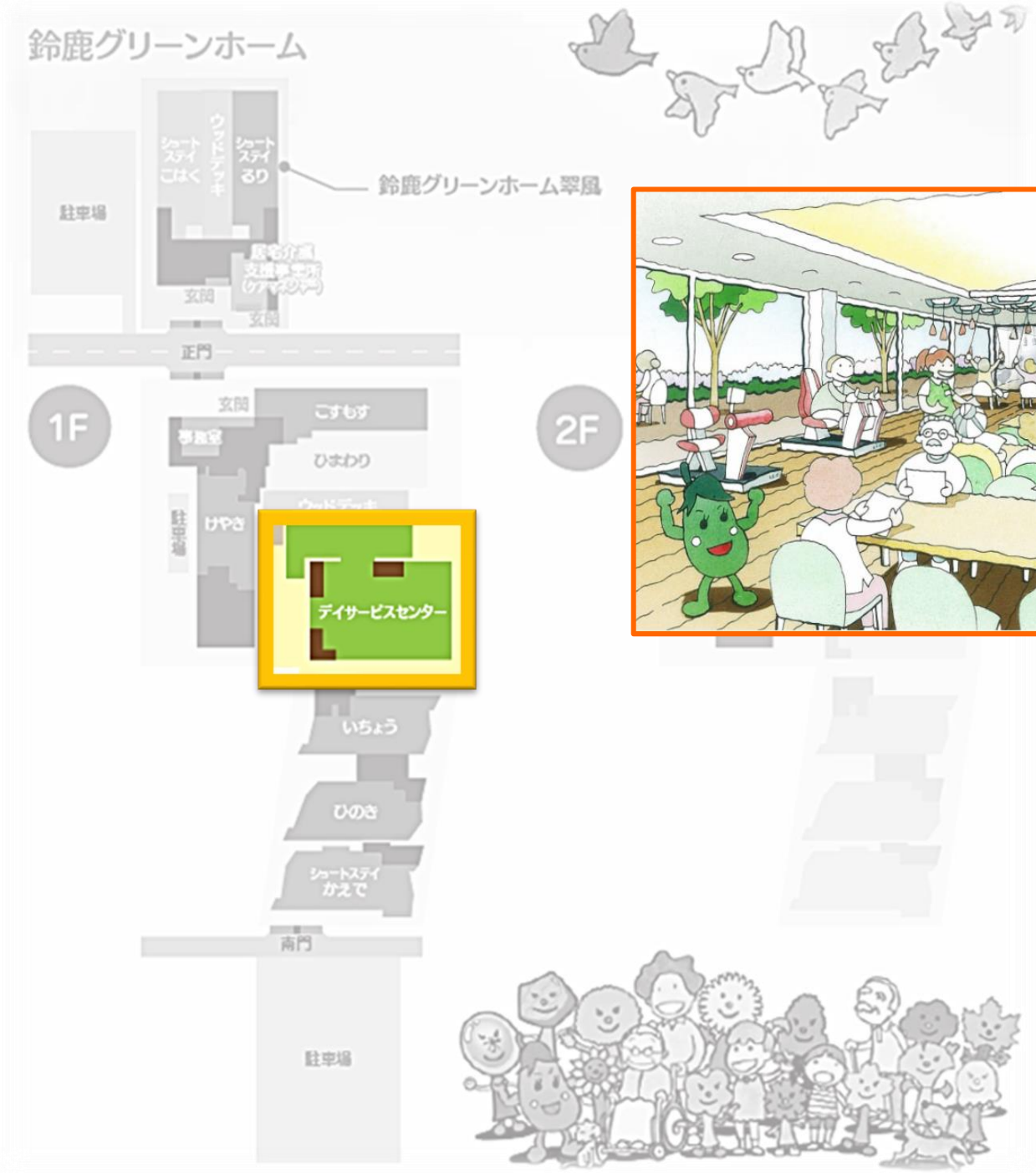


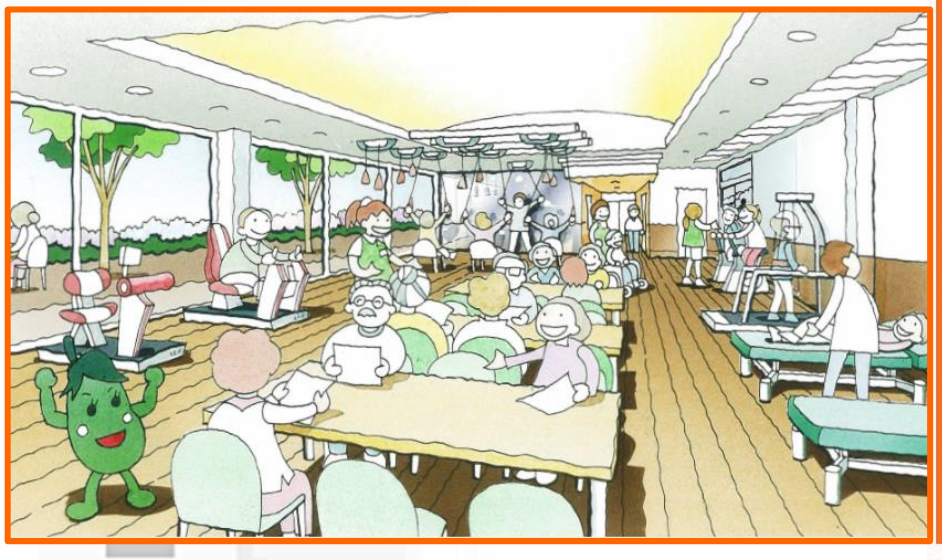


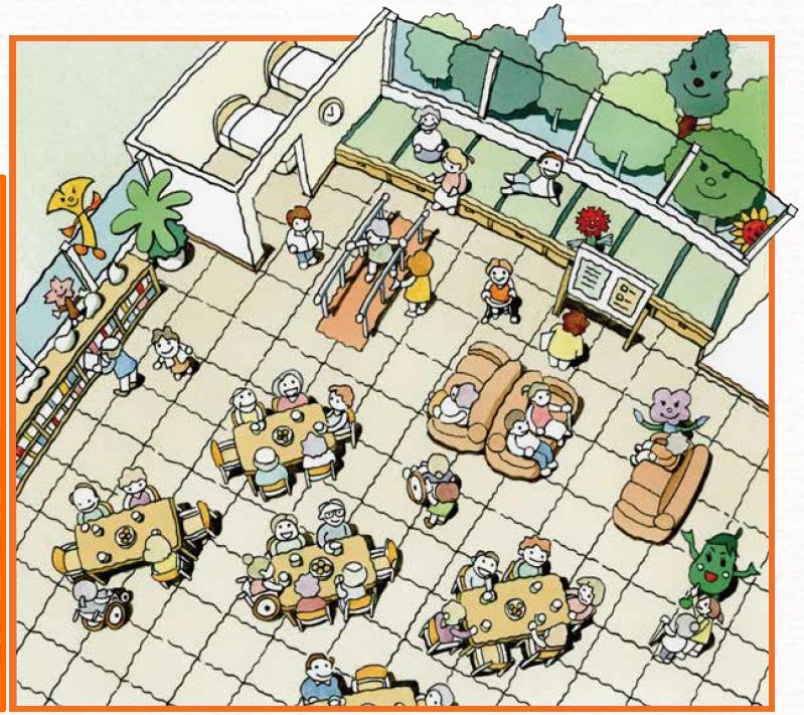
泊まる

➢ショートステイ
(ユニット型個室10床・1ユニット)

介護をしている家族が、冠婚葬祭や病気・出産、休養や旅行等により、一時的に自宅での介護が出来なくなったときに、1泊2日から1月程度ご利用していただけます。(要支援・要介護対象)







通う

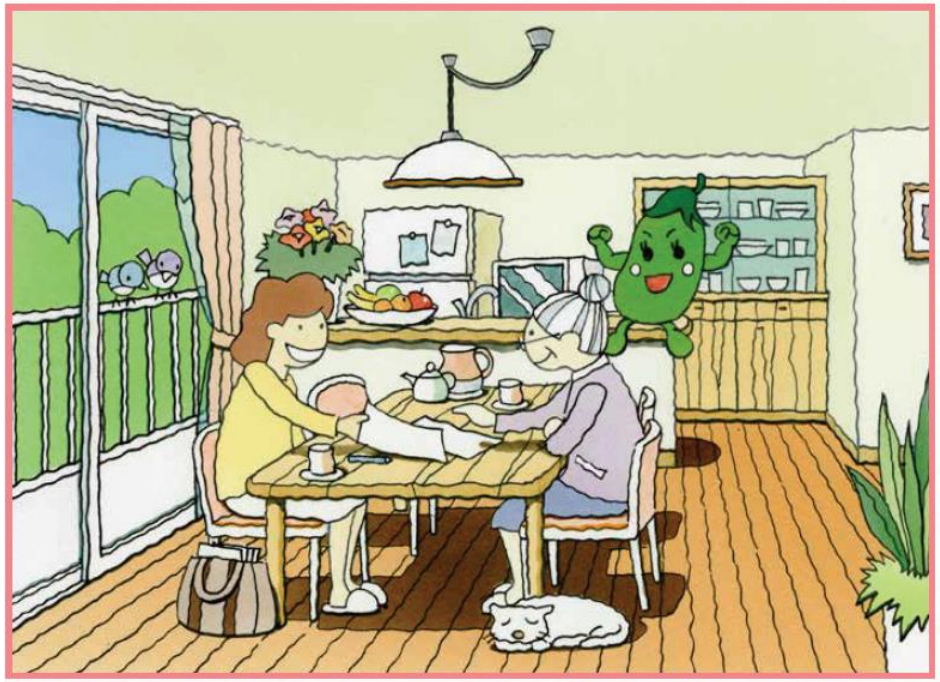
➢デイサービスセンター（定員70名）

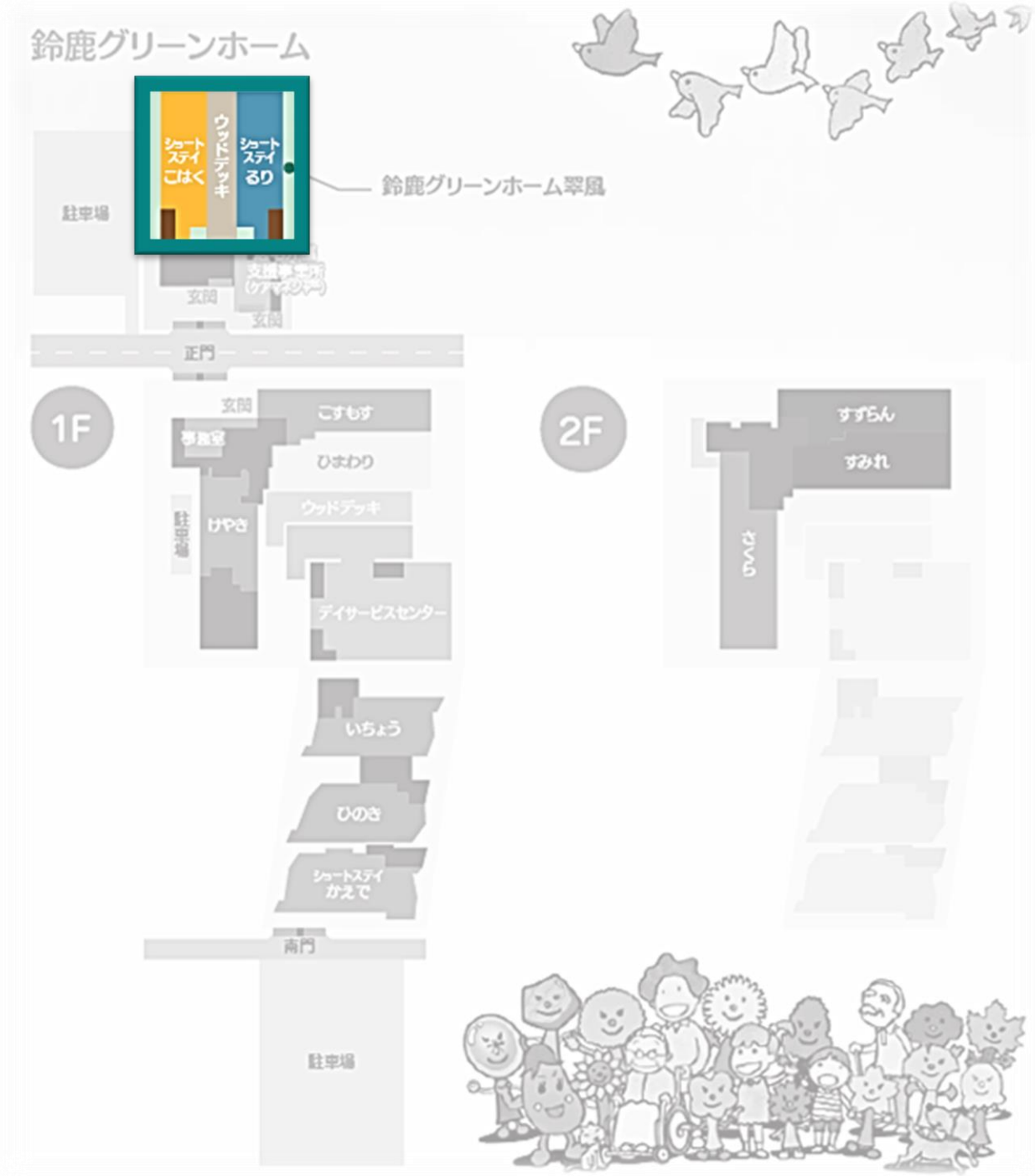
送迎、健康チェック、日常生活上の介護、入浴、機能訓練、食事・おやつ、アクティビティ（レクリエーション）など、ご本人に応じたケアやメニューを提供します。（要支援1・2、要介護1～5、総合事業対象者の方）



ｹｱﾌﾟﾗﾝ ➢居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）

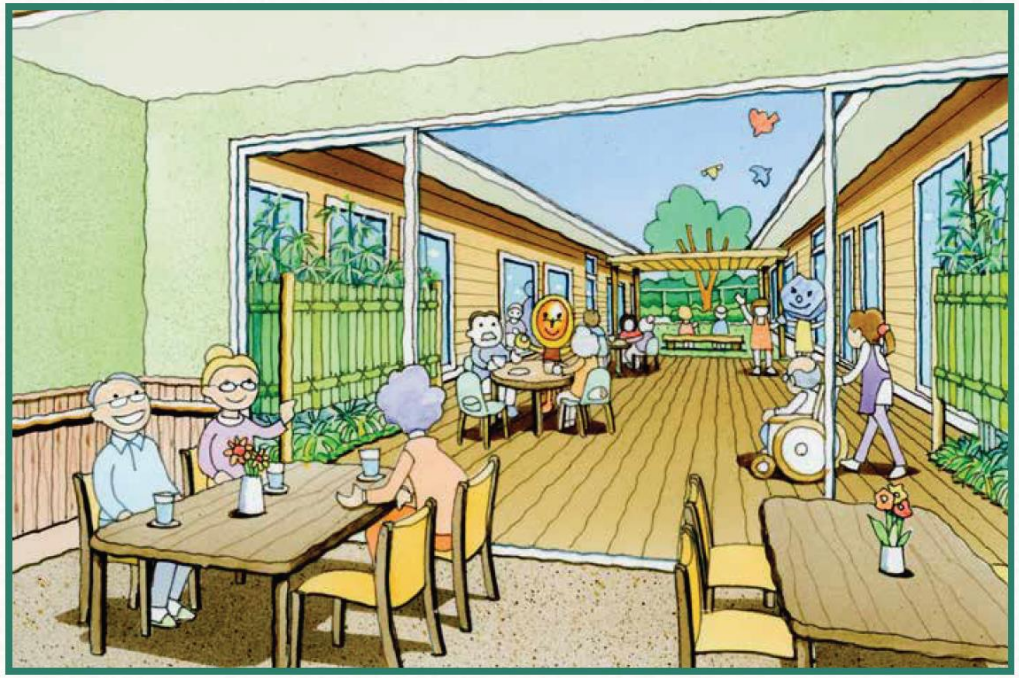
ケアマネジャー（介護支援専門員）の資格を持った職員が、ご本人の心身の状況やご家族のご希望に沿ったケアプラン（介護サービス計画） を作成します。サービス事業者への連絡調整や利用の手配などを行います。





泊まる ➢ショートステイ (ユニット型個室20床・2ユニット)

介護をしている家族が、冠婚葬祭や病気・出産、休養や旅行等により、 一時的に自宅での介護が出来なくなったときに、1泊2日から1月程度ご利用していただけます。(要支援・要介護対象)





泊まる ➢ショートステイ
(ユニット型個室20床・2ユニット)

ケアプラン ➢居宅介護支援事業所
(ケアマネジャー)

暮らす ➢特別養護老人ホーム
(ユニット型個室80床・8ユニット)

泊まる ➢ショートステイ
(ユニット型個室10床・1ユニット、共生型短期入所指定)

通う ➢デイサービスセンター
(定員70名・共生型生活介護指定)

地域生活を支える ➢フレイル予防デイリーアクションプログラム
【鈴鹿市受託事業、地域住民対象 介護予防教室】※地域(公民館等) 又はデイサービスで開催(Webも可能)

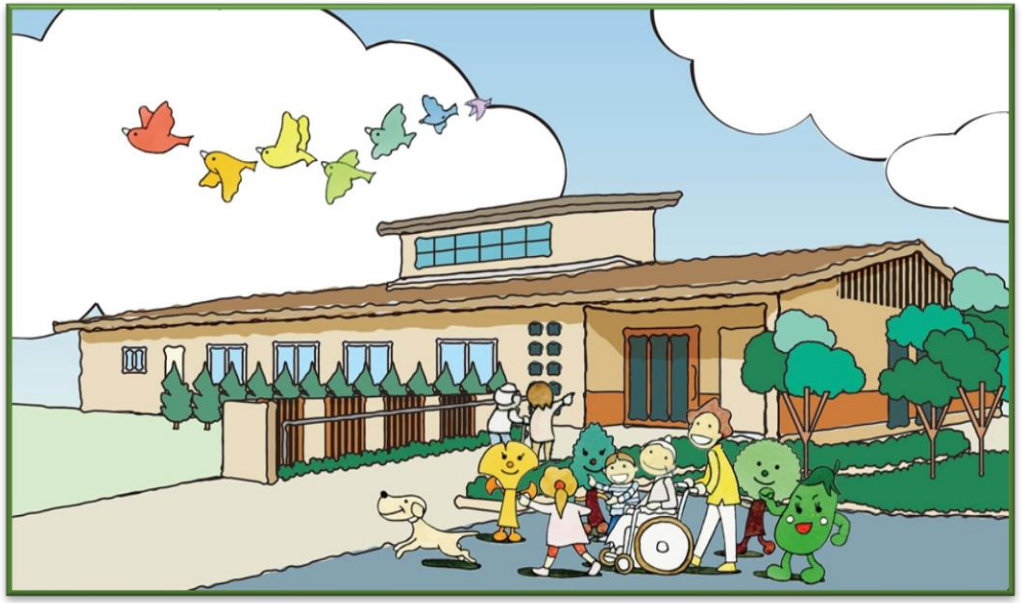
「6つの高齢者福祉・支援サービス」

「悠々」拠点　(鈴鹿市伊船町)

暮らす

➢認知症グループホーム (ユニット型個室9床・1ユニット)

さまざまな認知症のある方（高齢者）が共同生活住居において、少人数を生活単位として24時間の専門的支援体制のもとで、ケアを受けることができます。



通う

➢地域密着型デイサービス (定員18名)

送迎、健康チェック、日常生活上の介護、入浴、機能訓練、食事・おやつ、アクティビティ（ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ）など、ご本人に応じたケアやメニューを提供します。（要支援1・2、要介護1～5、総合事業対象者の方）



・ケアプラン作成
・デイサービスのご利用
・認知症グループホームへの入居
・ショートステイのご利用
・介護予防教室へのご参加
・特別養護老人ホームの入居　など

介護に関するご相談をお受けいたします

鈴鹿グリーンホームの介護サービスの特徴

介護ロボット・介護機器（テクノロジー）の活用

職員の腰痛予防（装着型ロボット）

HAL®(ﾊﾟﾜｰｽｰﾂ)



特別養護老人ホーム　1台(2017年導入～2022.4(使用期限満了につき返却))

職員の腰痛予防（装着型ロボット）

マッスルスーツ(ﾊﾟﾜｰｽｰﾂ)



特別養護老人ホーム　1台(2018年導入)

職員の腰痛予防（装着型ロボット）

J-PAS(ﾊﾟﾜｰｽｰﾂ)

ショートステイの送迎業務にも使用





特別養護老人ホーム・ショートステイ　1台(2021年導入)

職員の腰痛予防（非装着型ロボット）

i-PAL(ｱｲﾊﾟﾙ)



特別養護老人ホーム　1台(2017年導入)

職員の腰痛予防（非装着型ロボット）

SASUKE(ｻｽｹ)







特別養護老人ホーム　1台(2021年導入)

職員の腰痛予防（介護機器）

電動リフト
(居室で使用)



特別養護老人ホーム・ショートステイ　計3台(2011年～導入)

職員の腰痛予防（介護機器）

電動リフト
(浴室で使用)





特別養護老人ホーム・ショートステイ　5台(2014年～導入)

職員の腰痛予防（介護機器）

電動リフト

(ｽｶｲﾘﾌﾄ、ﾄｲﾚで使用)



デイサービスセンター　1台(2021年導入)

職員の腰痛予防（機械式浴槽）

機械式個浴



特別養護老人ホーム･デイサービスセンター　計6台(2008年～導入)

職員の腰痛予防（機械式浴槽）

車いす式機械浴



特別養護老人ホーム･デイサービスセンター
計2台(1994年～導入)

寝台式機械浴

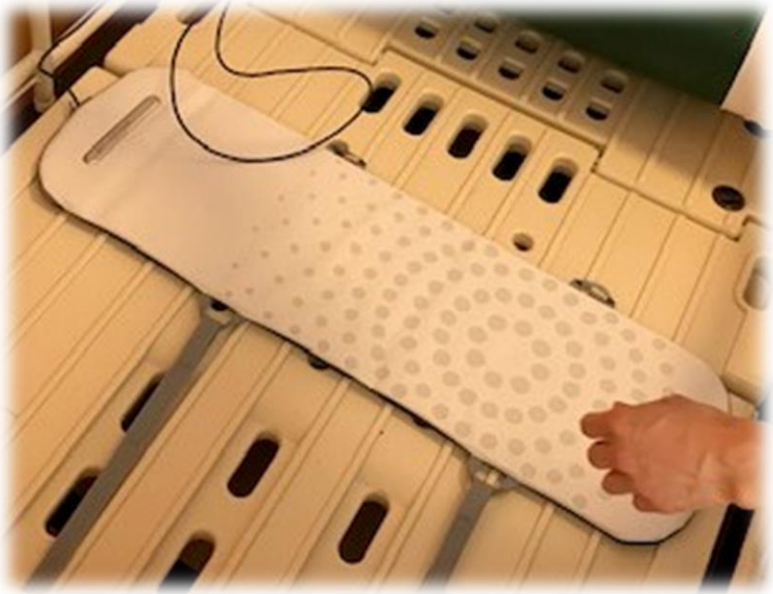


特別養護老人ホーム　1台
(1994年～導入)

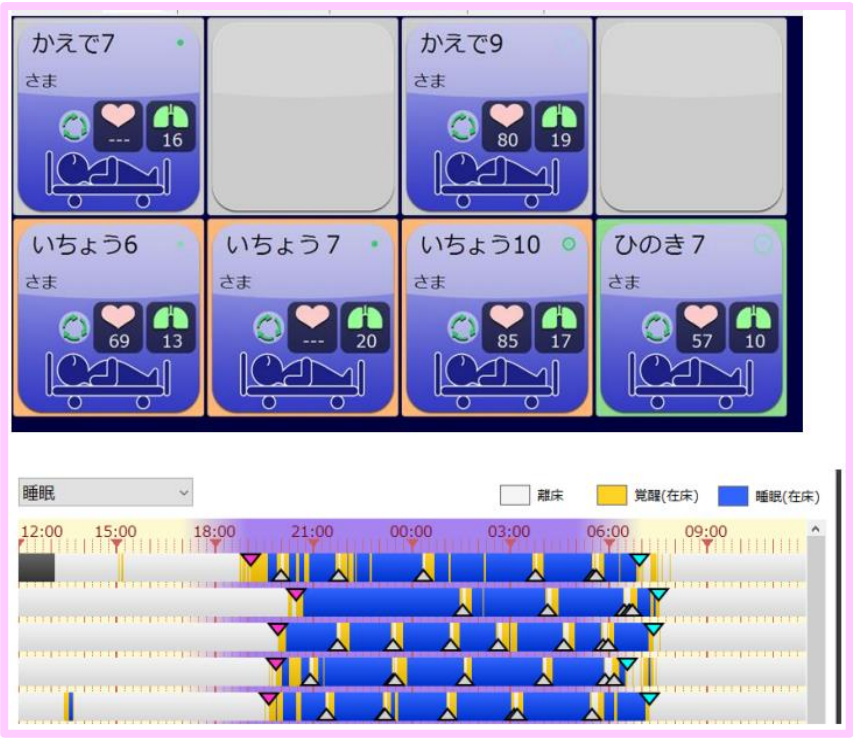
見守り支援（マット系センサーロボット）



眠りSCAN(訪室回数軽減、夜勤負担軽減)







睡眠・覚醒、脈拍、呼吸、臥位・座位、睡眠グラフを手元端末でリアルタイム確認

１時間ごとに介護記録ソフトに自動記録

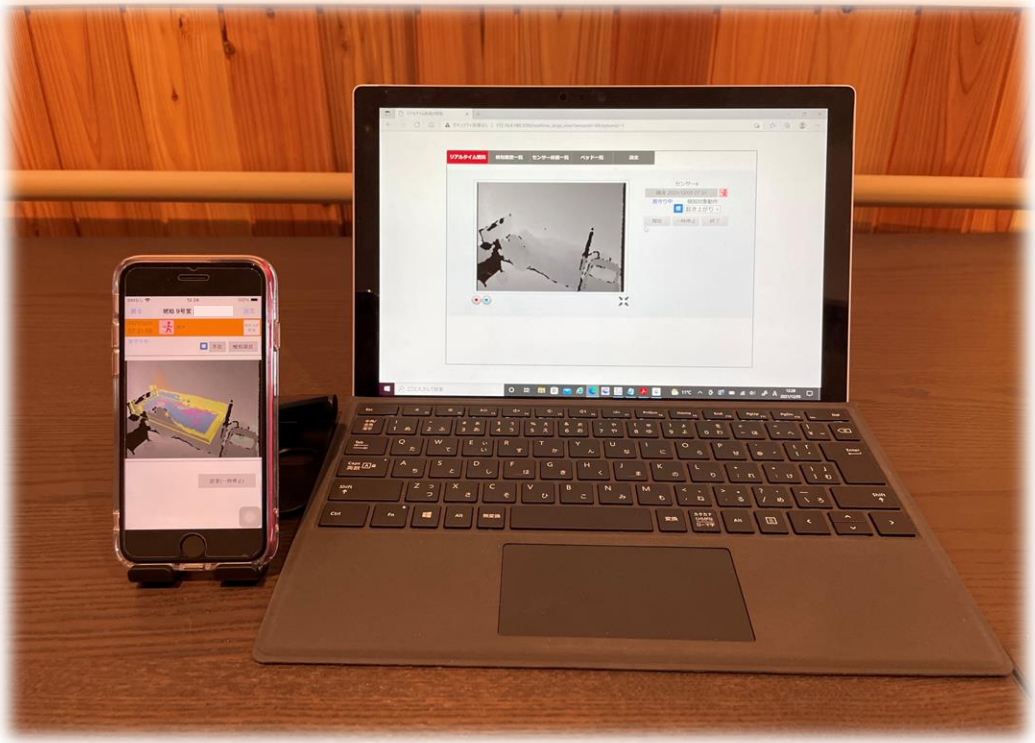
特別養護老人ホーム・ショートステイ　計15台(2018年導入)

見守り支援（カメラ系センサーロボット）

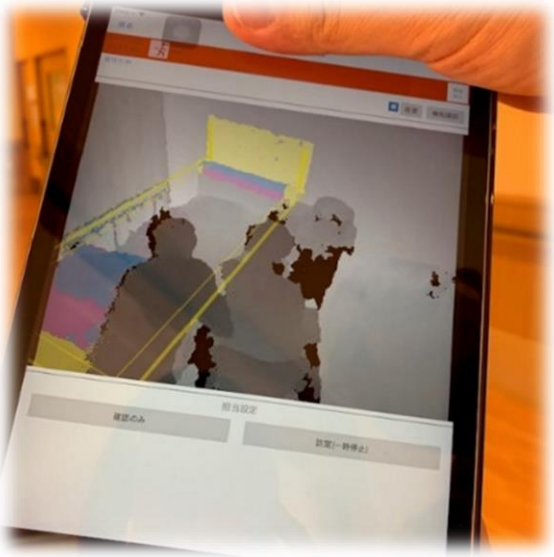
Neos+Care

(シルエット機能付、訪室回数軽減、夜勤負担軽減)









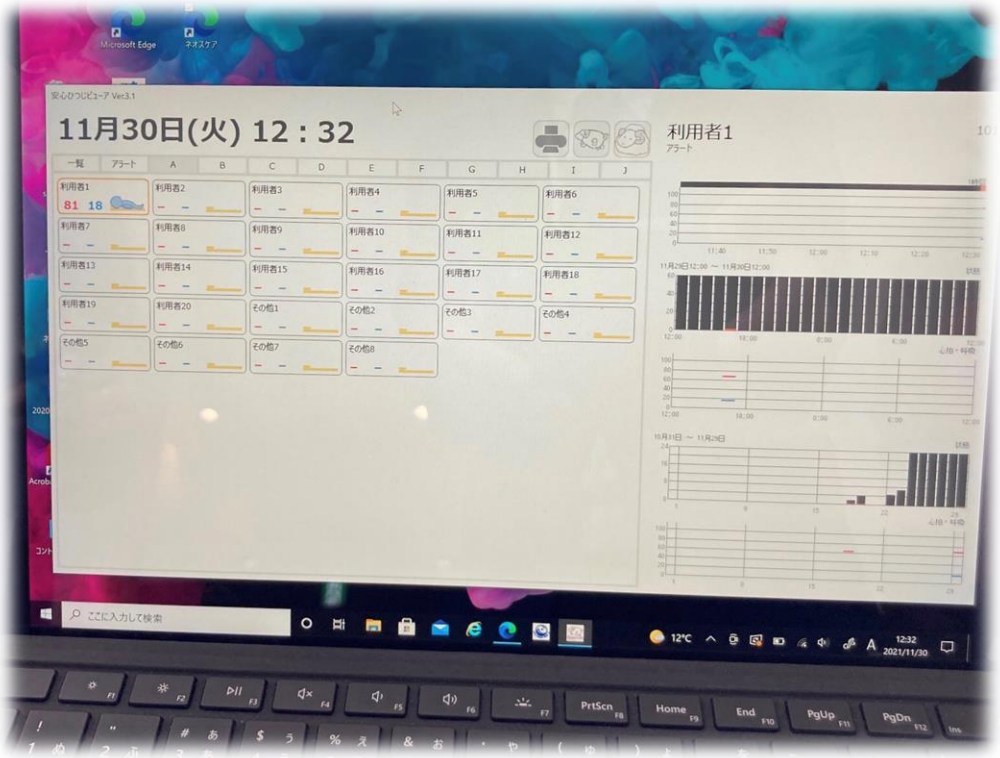
特別養護老人ホーム・ショートステイ・ショートステイ翠風　計40台
(2020年・2021年・2023年導入)

見守り支援（マット系センサーロボット）

安心ひつじa

(ナースコール機能付、訪室回数軽減、夜勤負担軽減)





ショートステイ翠風　28台(2021年導入)

見守り支援・介護業務支援（カメラ系センサーロボット）

HitomeQケアサポート

(訪室回数軽減、夜勤負担軽減、利用者状況把握)



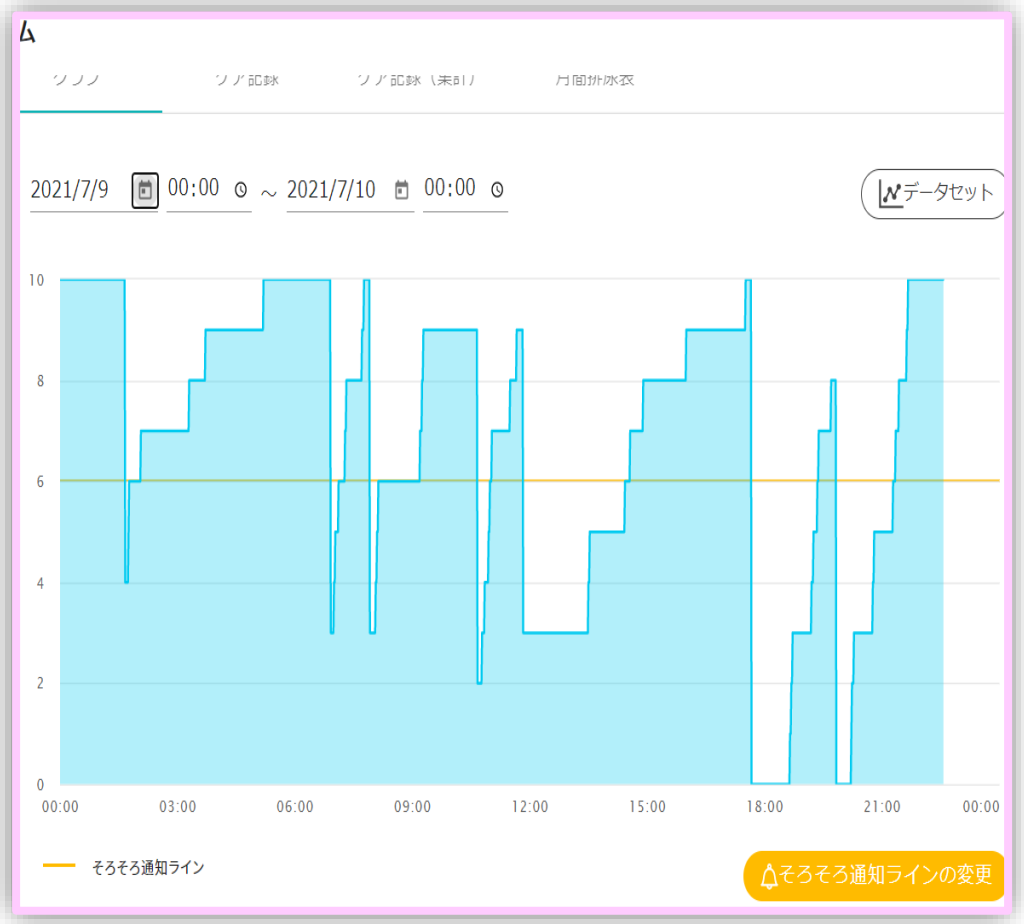


ショートステイ翠風　10台(2021年・2022年使用・2022年導入)

排せつ予測（介護ロボット）

Dfree
(排せつ介助負担軽減)





特別養護老人ホーム・ショートステイ　1台(2020年導入)

コミュニケーション（介護ロボット）

メンタルコミット ロボ
パロ



特別養護老人ホーム　1台(2017年導入)

情報通信技術（ICT）

BlueOceanNOTEⅡ
Wiseman
(介護ソフト・記録業務負担軽減)

全職員がPC・Surfaceで記録



厚生労働省「科学的介護情報システム　LIFE(旧CHASE)」(2020.5～)

全部署　計29ライセンス(2019年導入)

情報通信技術（ICT）

デジタル体温計・デジタル血圧計
(記録業務負担軽減)

測定した体温・血圧は
介護ソフトに自動記録







特別養護老人ホーム・ショートステイ　各6台(2020年導入)

情報通信技術（ICT）

インカム
(情報伝達・情報共有)





職員全員がインカムを装着することで、
情報連携・情報共有だけでなく、職員の精神的な負担も軽減

全部署　計69台(2019年～導入)

情報通信技術（ICT）

VoiceFun
(アプリ・記録業務負担軽減)



ケアマネジャーの帳票記録は
音声で入力

居宅介護支援　6ライセンス(2018年導入)

AGEphone
(ｽﾏｰﾄﾌｫﾝ用内外線通話アプリ)



見守り支援機器viewer(2機種)
とのワンデバイス化

ショートステイ翠風　4台(2021年softphone導入→2022年変更)

情報通信技術（ICT）

NAS (Network Attached Storege)

モバイルWiFiルーター

(情報共有・事務負担軽減)

各部署の端末からアクセス
外部からの接続可能(VPN)







LINEオープンチャット

(職員への情報伝達・情報共有)

全部署(2018年・2021年・2022年導入)

情報通信技術（ICT）

X'ion
(アプリ・ICカード労務管理・勤務管理業務負担軽減)

申請、承認はオンライン上で





全部署　計3台(2020年・2021年導入)

情報通信技術（ICT）

Nintendo　Switch
(eスポーツ・アクティビティ)

新しいアクティビティにチャレンジ！
今後、様々なアプリの活用を検討







デイサービスセンター　1台(2022年導入)

テクノロジー活用【レベル１： 介護ソフトの活用による介護看護記録･1端末化･自動記録】

②血圧測定記録



自動記録



②体温測定記録

自動記録

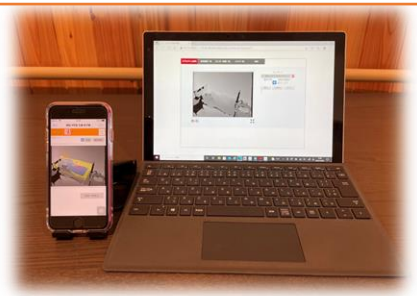
①介護ソフト
「BlueOceanNote Ⅱ」



手元端末
確認

手元端末
確認

②見守り支援ロボット「Neos+Care」情報

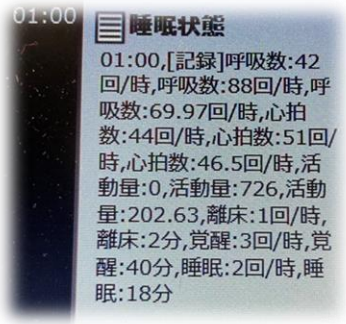


②見守り支援ロボット
「安心ひつじα」情報



自動記録

②見守り支援機器
「眠りSCAN」情報

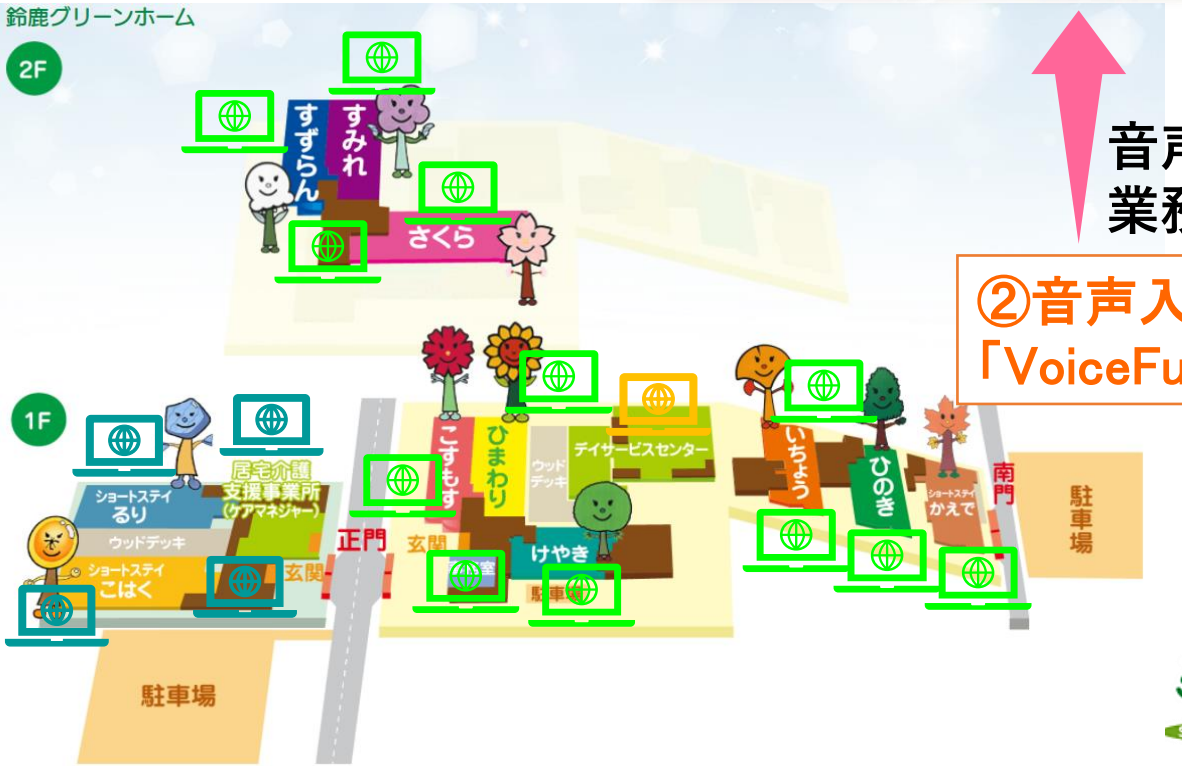


①介護ソフト「ワイズマン
在宅ケアマネジメント支援システム」

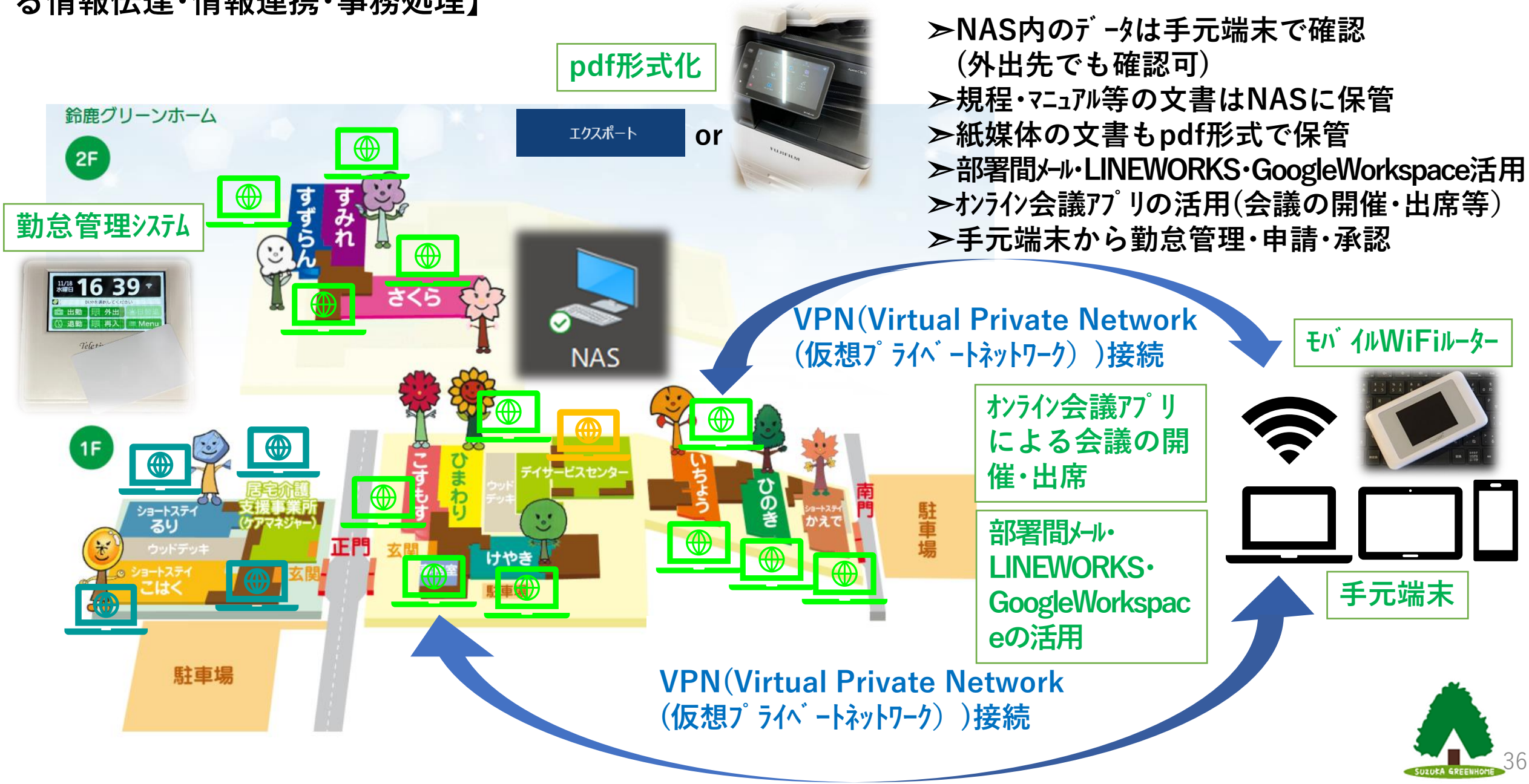


音声による
業務記録

②音声入力ソフト
「VoiceFun」



テクノロジー活用【レベル１： WiFi・NAS(Network Attached Storage、ﾈｯﾄﾜｰｸHDD)、Eメール等の活用による情報伝達・情報連携・事務処理】



テクノロジー活用【レベル３：ＩＣＴと介護ロボットの組み合わせ①】

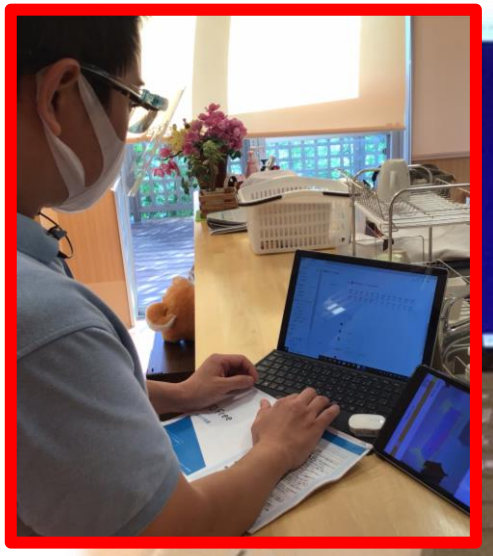
①排せつ予測デバイス「Dfree」
→膀胱内尿量を「vierer」手元端末で確認

②見守り支援機器眠りSCANの「viewer」→睡眠・覚醒状況をリアルタイムで確認

③1時間ごとに呼吸数、心拍数、離床回数・時間、覚醒回数・睡眠回数・時間を介護ソフトに自動的に記録

尿量と覚醒状況を確認し、排せつ支援

- **訪室回数の減少**
- **トイレ誘導時の排せつ率向上**





テクノロジー活用【レベル３：ＩＣＴと介護ロボットの組み合わせ②】

①ナースコール機能付き見守り支援機器
「安心ひつじα」
・ナースコール「vierer」を手元端末で確認
・呼吸、心拍（離臥床、体動）を
「viewer」手元端末で確認

②見守り支援機器「Neos+Care」の
「viewer」→離臥床、体動を手元端末で
リアルタイム確認
同時にアラームを手元スマートフォンに通知

③ナースコール、呼吸数、心拍数、離床回
数・時間をサーバーに自動保存

④インカム又はスマートフォン内外線通話アプリ
「AGEphone」による情報連携

**→見守り支援にかかる業務負担が
大幅に軽減**

- **訪室回数の減少**
- **ヒヤリハット事例、事故の発生防止、再発の防止**



①安心ひつじα

①安心ひつじ
αのviewer

出典:株式会社エヌジェイアイ HP

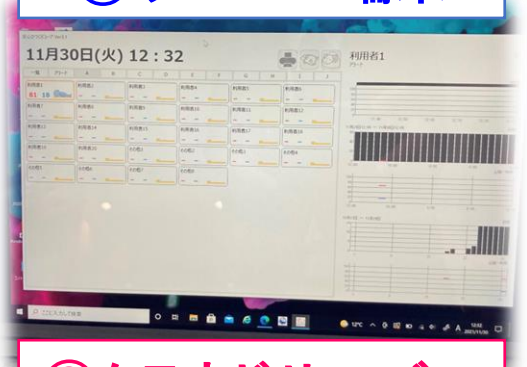


②Neos+Care





②サーバー端末



③クラウドサーバー

③サーバー

②スマートフォン
（スタッフ携帯）

②Neos+Care
のviewer

情報通信技術（ICT）

Zoomなどのオンラインコミニュケーションアプリ
（会議・研修など）

感染症予防・会場までの
移動時間等の負担を削減







全部署　（2020年導入）

情報通信技術（ICT）

Zoomなどのオンラインコミニュケーションアプリ
（面会、施設見学、採用面接、音楽会・Web教室など）







全部署　（2020年導入）

情報通信技術（ICT）

Airoco(換気状況・CO_2見える化システム)
（ホーム内各所、地域サロンなど）





5台 （2023年導入）

情報通信技術（ICT）

体力テストの自動測定
体力テスト結果の自動記録、
リアルタイムレポート出力

モフ測(Moffバンド)

（体力測定用ウェアラブル端末、アプリ）







デイサービスセンター　5本(2020年導入)

情報通信技術（ICT）

モフトレ(Moffバンド)

（オンライン機能訓練・アクティビティツール、アプリ）









動画による機能訓練
トレーニング結果の自動記録
リアルタイムレポート出力

デイサービスセンター　5本(2021年導入)

情報通信技術（ICT）

HURスマートタッチ
（トレーニングマシン）

負荷と回数の自動設定
トレーニング結果の自動記録
リアルタイムレポート出力



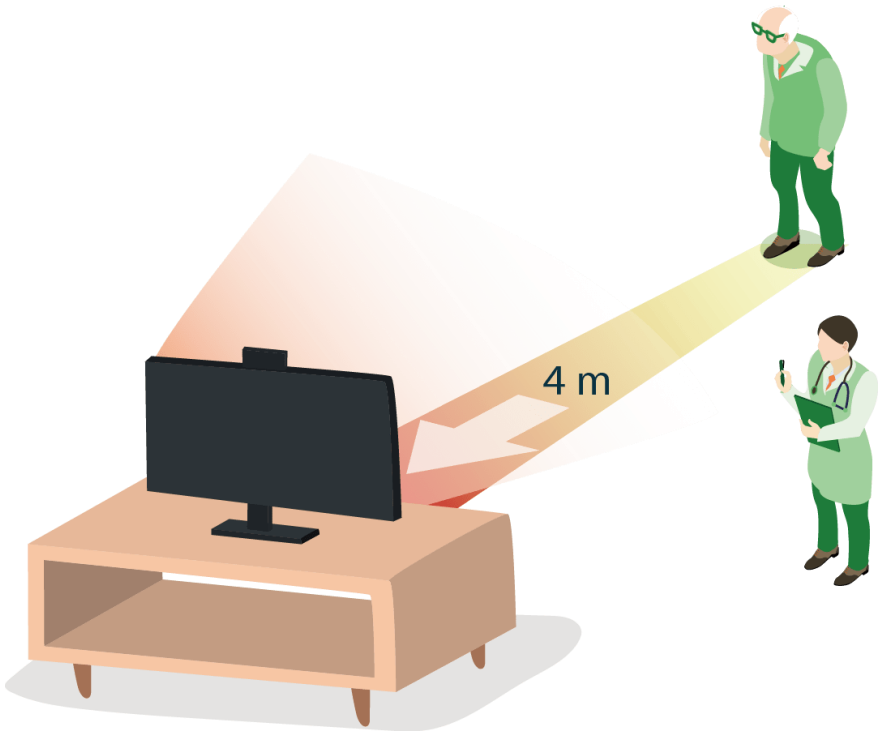


・アダクション／アブダクション
・チェストプレス
・プッシュアップ／プルダウン
・アブドメン/バック
・レッグプレス

デイサービスセンター　5台(2018年導入)

情報通信技術（ICT）

「GaitBEST」「Majesty」
（歩行分析アプリ）



出典：ロンググッド ヘルステック株式会社ホームページ

・3Dカメラの機能(Xbox360Kinect センサー)を活用した歩行分析が可能
・4m歩行で転倒リスクなどを30秒で判断
・リアルタイムレポート出力



デイサービスセンター　１ライセンス(2023年導入)

情報通信技術（ICT）

「V Care」
（歩行分析アプリ）



（第12回介護経営サミット資料）

居室以外の共同生活室など
共有スペースの見守りの
可能性にチャレンジ!



Voxela VCare

転倒、起床、徘徊などの重大な事故をAIが検知し、
即座に介護者に通知します

特別養護老人ホーム・ショートステイ　4台(2023年～試行)

～その他の機能訓練用機器・器具～

redcord®



ﾘｶﾝﾍﾞﾝﾄﾊﾞｲｸ



ｱｼｽﾄｳｫｰｶｰ（免荷機能付）



デイサービスセンター　(2018年導入)

テクノロジー活用【レベル４：デジタルツールの活用による機能訓練･介護予防】





１（１）Moffﾊﾞﾝﾄﾞ「ﾓﾌﾄﾚﾚﾎﾟｰﾄ」体力ﾃｽﾄ（TUG・CS-30・開眼片脚立位）
１（２）身長・体重・握力測定
２「基本ﾁｪｯｸﾘｽﾄ」
（公民館･ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰなど）

歩行測定ｱﾌﾟﾘ
「GaitBest」
「Majesty」
導入予定

リアルタイムレポート
（ｾﾗﾋﾟｽﾄからの説明･指導、成果の共有）

















３ HURｽﾏｰﾄﾀｯﾁ
（ﾏｼﾝﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ）

Moffﾊﾞﾝﾄﾞ
×
HUR
×
redcord®
×
Zoom
×
P4S





４ redcord®
（体幹ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ）



５ Moffﾊﾞﾝﾄﾞ「ﾓﾌﾄﾚ」
（動画で軽運動）





６ Zoomを用いた音楽ﾚｸ（同時･複数箇所（公民館･自宅･ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ･特養ﾕﾆｯﾄなど））、口腔･栄養･医療･認知症等の専門職指導

ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ鈴鹿ｸﾞﾘｰﾝﾎｰﾑ　介護予防・重度化防止・健康寿命延伸　ｽｷｰﾑ

ｱｾｽﾒﾝﾄ
・身長測定、体重測定、BMI算出、握力測定、基本ﾁｪｯｸﾘｽﾄ、BarthelIndex、DBD-13、（MMSE）
・ﾓﾌﾄﾚﾚﾎﾟｰﾄ（TUG、CS-30、開眼片脚立位）

歩行測定ｱﾌﾟﾘ「GaitBest」「Majesty」導入

筋ﾄﾚ
・HURｽﾏｰﾄﾀｯﾁ

呼吸循環器系ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ
・ﾘｶﾝﾍﾞﾝﾄﾊﾞｲｸ
・ｱｼｽﾄｳｫｰｶｰ

体幹ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ　ﾘﾗｸｾﾞｰｼｮﾝｽﾘﾝｸﾞ
・Redcord®（ｼｮﾙﾀﾞｰｽﾘﾝｸﾞ・ﾚｯｸﾞｽﾘﾝｸﾞ・筋緊張緩和）

ﾛｺﾓ予防ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ　日常生活動作ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ　ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ
・ﾓﾌﾄﾚ
・音楽ｾﾗﾋﾟｰ（軽体操、ｺｸﾞﾆｻｲｽﾞ、回想法、ﾎﾞｲｽﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ）
・eｽﾎﾟｰﾂ、ｵﾝﾗｲﾝｹﾞｰﾑ
・計算ﾄﾞﾘﾙ、漢字ﾄﾞﾘﾙ　・読み聞かせ
・ものづくり　・料理、塗り絵等

歩行訓練
・平行棒、70m歩行等

ｾﾗﾋﾟｽﾄによる手技
・間接可動域訓練等

日常生活動作反復訓練
・移乗動作　・入浴動作
・排せつ動作　・食事動作等

その他
・ﾗｼﾞｵ体操
・健康保健指導
・口腔ｹｱ、指導　・栄養ｹｱ、指導
・ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽへの通い（活動と社会参加）

ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ（毎月）評価（3か月毎）

日常生活・在宅生活の継続

ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ
鈴鹿グリーンホーム

テクノロジー活用【レベル４：ＩＣＴとツールの組み合わせ】

【Ｒ4から継続】

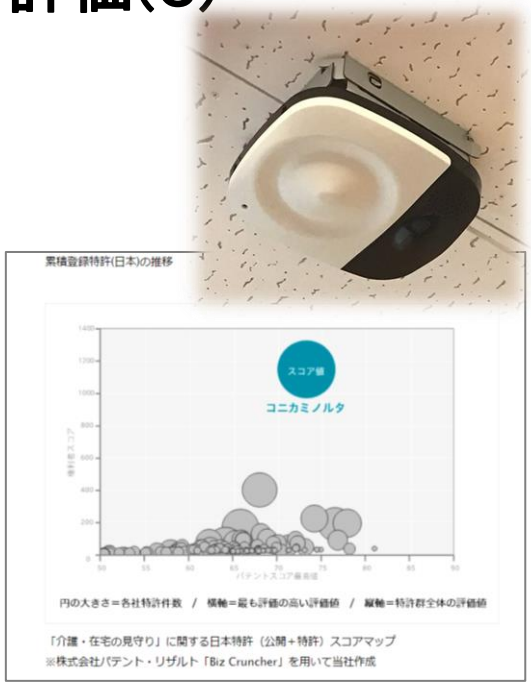
⑦改善状況把握(A)
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸﾃﾞｰﾀの活用(ｹｱ展開)、評価(C)

LIFE
科学的介護情報システム

⑧分析

認知症の診断
認知症高齢者の日常生活自立度

①状態把握





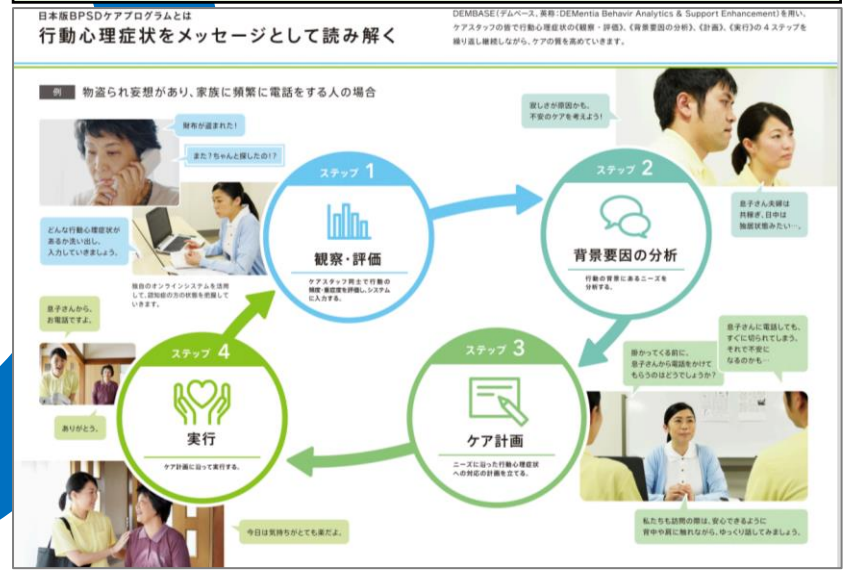
②観察
⑥状況記録

HitomeQ　ｹｱｻﾎﾟｰﾄｼｽﾃﾑ
(ｺﾆｶﾐﾉﾙﾀ株式会社)

出典：HitomeQ ケアサポート | コニカミノルタ (konicaminolta.com)

認知症ケア
×
テクノロジー

日本語版BPSDｹｱﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ
DEMBASE
(公益財団法人東京都医学総合研究所)



出典：DEMBASE_a3_180601_kanni_ol.pdf (igakuken.or.jp)

②観察・評価→③背景要因の分析→④ｹｱ計画(P)→⑤実行(D)

【ケアマネジメントサイクルにかかる生産性向上(居宅介護支援)：AIは使用でき次第】【R4から継続】

インテーク

アセスメント

ケアプラン原案作成

サービス等調整

サービス担当者会議

説明・同意・交付

P(計画)

D(実行)

モニタリング

C(評価)
※LIFE

A(改善)

給付管理

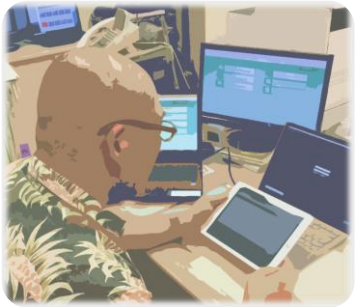
➢活用するべきツール
- 介護ソフト
- ラップトップPC、スマートホン等のデバイス
- 音声入力ソフト
- アプリ(オンライン会議、情報連携、AI)
- WiFi、LAN、NAS

第1表・・・CM
第2表・・・AI作成
第3表・・・AI作成

第4表、第5表
・・・音声入力等活用

第6表、第7表
・・・AI

LIFEﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸﾃﾞｰﾀの活用【レベル３：LIFEｼｽﾃﾑと介護ｿﾌﾄの組み合わせ】【Ｒ3.6～継続】



LIFE
科学的介護情報システム

（１）CHASEﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ（試行版）
2020.8ｻｰﾋﾞｽ提供部分

①１日あたりの時間／回数（離床・座位保持・立ち上がり）【FORM_0600_2021_01】
②排せつの状態に関するｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ・支援計画書
排せつ（日中）の状況
【FORM_0600_2021_01＆02】
③自立支援促進に関する評価・支援計画書
支援実績（日々の過ごし方、居場所づくり）
【FORM_0700_2021_01】
④個別機能訓練計画書（機能訓練の長期・短期目標への活動参加の位置付け数）
【FORM_0330_2021_02】
⑤生活機能ﾁｪｯｸｼｰﾄ（ADL）
【FORM_0320_2021】
⑥興味・関心ﾁｪｯｸｼｰﾄ（任意）

（２）施設ｻｰﾋﾞｽ計画書「P」

（３）個別ｹｱの提供「D」

（４）①LIFEﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ（暫定版）
2021.8ｻｰﾋﾞｽ提供部分「C」「A」

（４）②
BlueOceanNote Ⅱからの自ﾎｰﾑﾃﾞｰﾀ抽出

LIFE
×
PDCAｻｲｸﾙ
×
ｹｱﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ
×
BlueOceanNote Ⅱ

（５）施設ｻｰﾋﾞｽ計画「P」
施設サービス計画書のニーズの変化
ケアプラン第２表「生活全般の解決すべき課題(ニーズ)」の比較

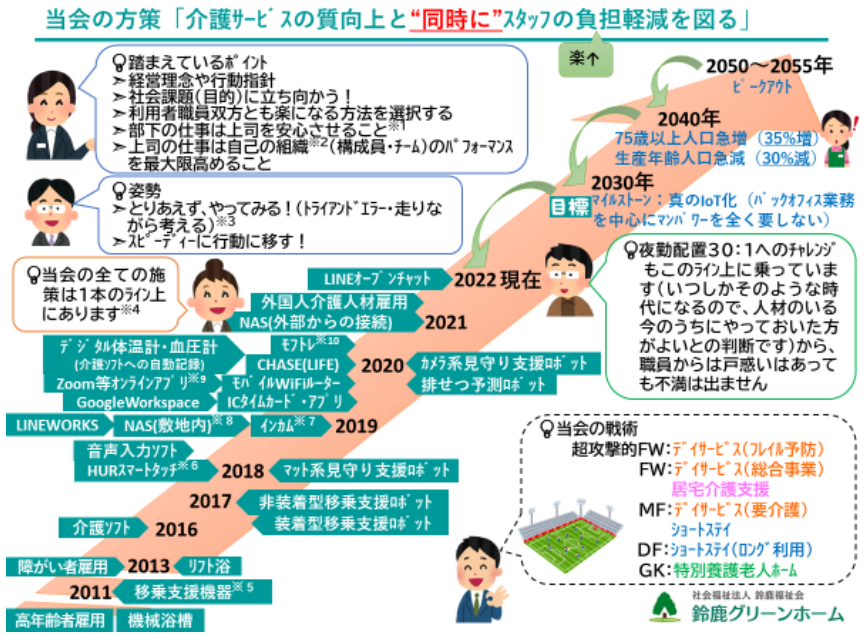
（６）24時間ｼｰﾄ・各関連計画「P」



当会のテクノロジー利活用ポイント

~各機器を組み合わせる･できる限り活かし切る~

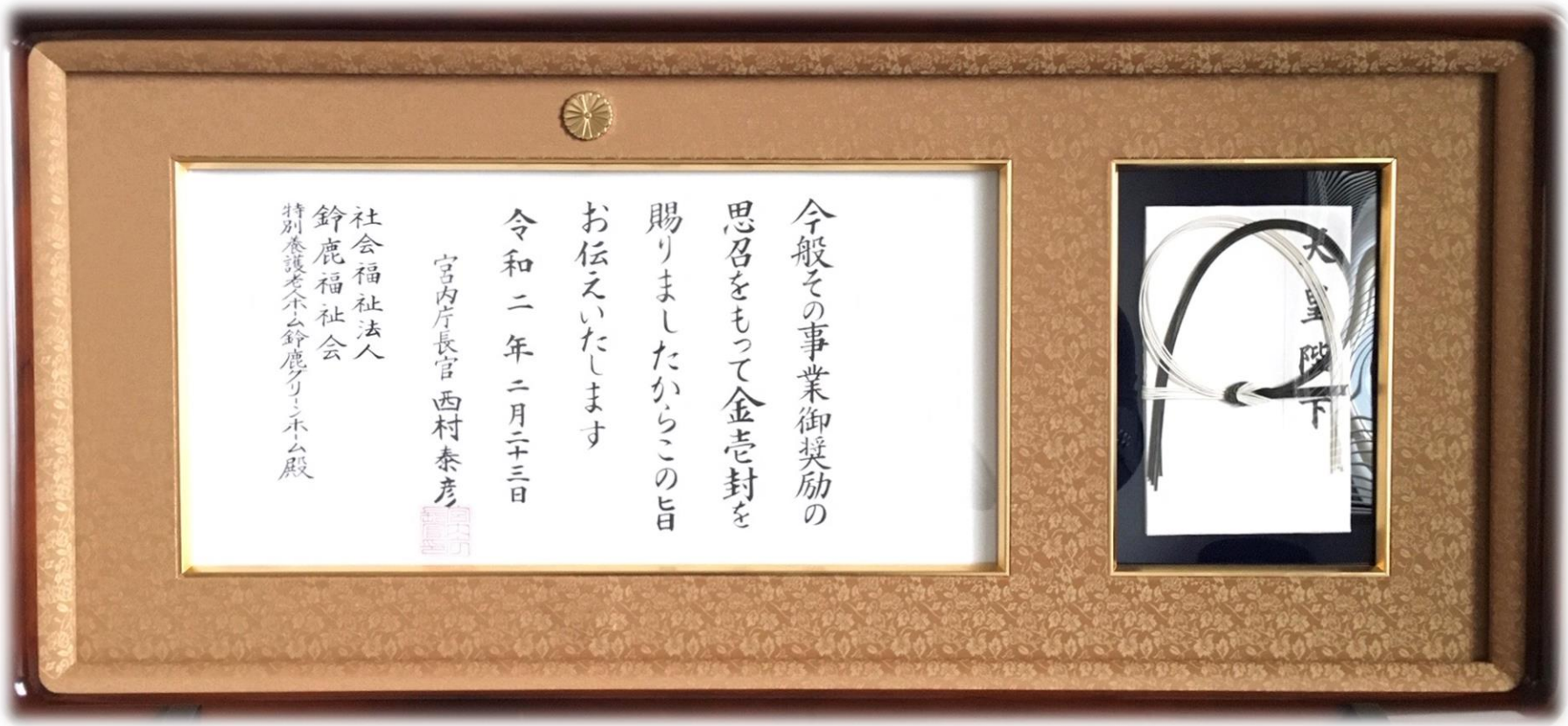
令和５年度取組予定の機器等







受賞、認証等の取得



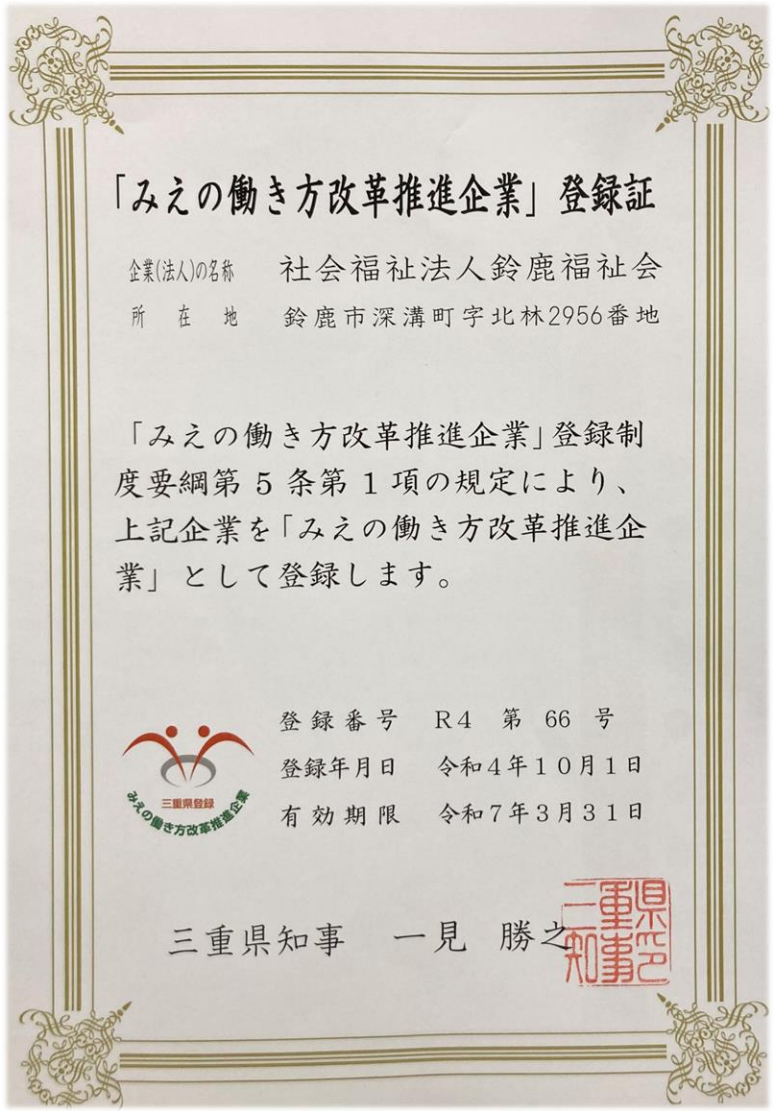


2020.2.23　令和になって初の天皇誕生日(2月23日)に際して、
今上陛下より、優良民間社会福祉事業施設として御下賜金を拝領





2021.10.6 三重労働局長 令和3年度安全衛生に係る優良事業場
「安全衛生努力賞」受賞



「みえの働き方改革推進企業」登録証

企業(法人)の名称　社会福祉法人鈴鹿福祉会
所在地　鈴鹿市深溝町字北林2956番地

「みえの働き方改革推進企業」登録制度要綱第５条第１項の規定により、上記企業を「みえの働き方改革推進企業」として登録します。

登録番号　R４　第　66　号
登録年月日　令和４年１０月１日
有効期限　令和７年３月３１日

三重県知事　一見　勝之

三重県登録
みえの働き方改革推進企業

2022.10.1 三重県「みえの働き方改革推進企業」登録



出典：三重県ホームページ

2015.11.2 三重県「障がい者雇用推進企業ネットワーク」登録

2022.9.26 農林水産省「野菜サポーター」登録



2022.10.14 消費者庁「消費者志向自主宣言」

2022.10.24 厚生労働省「知って肝炎プロジェクト」
パートナー企業登録

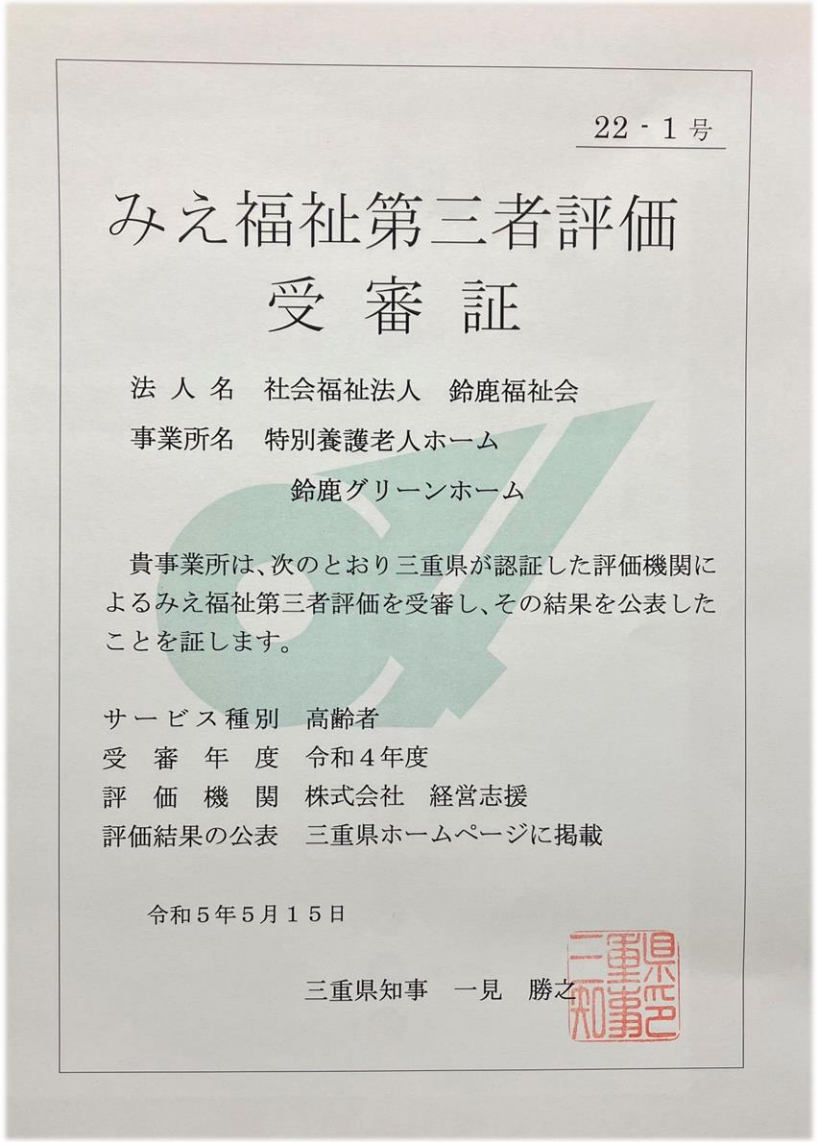


2020.10.29　更新
2022.10.29　更新





2018.10.29　三重県 みえ働きやすい介護職場取組宣言事業所証明(宣言番号１)
宣言：「働き方を改善して、仕事と家庭の両立を図る。」



22 - 1 号

みえ福祉第三者評価
受 審 証

法 人 名　社会福祉法人　鈴鹿福祉会

事業所名　特別養護老人ホーム
鈴鹿グリーンホーム

貴事業所は、次のとおり三重県が認証した評価機関によるみえ福祉第三者評価を受審し、その結果を公表したことを証します。

サービス種別　高齢者
受 審 年 度　令和４年度
評 価 機 関　株式会社　経営志援
評価結果の公表　三重県ホームページに掲載

令和５年５月１５日

三重県知事　一見　勝之

✓みえ福祉第三者評価基準 高齢者版：45項目

評価	今回	前回【平成28年度･2016年度】
A 評価	40項目（ 89％(↑)）	38項目（ 72％）
B 評価	5項目（ 11％(↓)）	15項目（ 28％）
C 評価	0項目（ 0％(－)）	0項目（ 0％）
計	45項目（100％ ）	53項目（100％）

2022　三重県「みえ福祉第三者評価」受審（2回目）

外部からのご依頼・取材等
（2021年以降・主なもの）

2021.2　三重県社会福祉協議会
「福祉みえ」令和3年3月号掲載



2020 February No.347

福祉みえ

連載

ふくしの職場 取り組み宣言

「働き方改革」として長時間労働の是正や多様な働き方が求められる中、三重県内の福祉の現場においても、働きやすい職場環境づくりに向けて人材育成や環境改善など様々な取り組みがなされています。本連載では、そのような取り組みを行っている福祉施設（法人）を紹介します。

第5回　社会福祉法人　鈴鹿福祉会

取り組み宣言　働き方を改善して、仕事と家庭の両立を図る。

社会福祉法人　鈴鹿福祉会では、ICTやロボットの導入によりスタッフの負担軽減、サービスの向上を実現させています。今回は、常務理事　五十部 綾子さん、同法人施設長　服部 昭博さんにお話を伺いました。

きっかけ

我が法人の新しいことに取り組む組織風土を大切にするとともに、利用者の増加・介護人材の減少という課題に対応すべく、まずは介護ロボット「HAL（ハル）」を導入しました。平成28年2月からデモを行い、翌年本格的に導入しました。

導入に向けて、まずは理事長と部長職員で話し合いを進めるところからスタートし、職員とともにすでに活用されている施設の見学を行いました。

ICT・ロボット導入の取り組みについて

ロボットは現在5機種を使用しており、各ユニットに分けて導入しています。使っていくうちに出てきた不具合などは、メーカーに伝えて改良につながっています。

ロボットと同時期に導入したICTは事務作業の効率化を実現させました。タブレットを用いた介護記録やリストバンド管理によるトレーニングデータの送受信は記録時間を大幅に短縮できています。

また、平成31年2月から導入したインカム（無線機器）は仕事を効率化させるだけでなく職員に安心感を与える役割も担っています。

導入後の変化

新しいことへの取り組みが職員のモチベーションの向上につながっていると感じます。ロボットやICTはあくまでも道具にすぎません。職員がこの道具をどう使いこなすのかが大切となってきますが、プロとして使いこなしていく工夫をそれぞれの職員が考えて実践しています。

また、ロボットは精神的、身体的負担の軽減だけでなく、職場体験や地域のイベントを通じて介護のイメージアップ、理解につながっています。

今後について

ICTの部分では見守り支援と介護記録を自動記録できるようになることを目指しています。そのためのインターフェースが課題としてありますが、基盤は徐々にできてきています。

テクノロジーを取り入れていく中でこれからは人手に頼らない、ということを考えています。

また、高齢者の多い地域では今後施設不足が懸念されますが、高齢者の方が自宅で健康に過ごすことができるよう、利用者の方の「予防と健康づくり」に引き続き取り組んでいきます。

▲HALの使い方を教えていただきました

▼介護ロボット「ロコ」と五十部常務理事

▲ICTについて説明される服部施設長

法人名　社会福祉法人 鈴鹿福祉会
本部住所　〒519-0321　鈴鹿市深溝町2956番地
ホームページ　https://suzuka-greenhome.jp/

2021.2 日本医療企画
「介護ビジョン-LIFEの運用に関する座談会-」掲載



Symposium

Harada Takashi 原田崇史

Kikuchi Yoshikazu 菊地芳一

Kitajima Fumitaka 北嶋史誉

Takeshita Kouhei 竹下康平

どうする？ LIFE対応

科学的介護への対応を変革の契機としよう

科学的介護情報システム（LIFE）活用の推進が決まった今次報酬改定。しかし、その活用方法はまだ見えてこない。そこで、データ収集システム「CHASE」に取り組んだ鈴鹿グリーンホームの原田崇史氏とグリーンコート三愛の菊地芳一氏、ICT化で業界を牽引するエムダブルエス日高の北嶋史誉氏、そして、介護とITを同時に考える会社、ビーブリッドの竹下康平氏の4氏にLIFEの現状と今後を語ってもらった。

まずインストールで困難に直面

――原田さん、菊地さんは先にCHASEを利用されていますが、現時点（2月末）での感想を教えてください。

原田●昨年5月1日にCHASEに関する通知のハガキが届き、「今後、加算項目になっていくから先んじてやろう」と進めてきました。端的な感想として、まず、インストールの段階から初めてのことで、不慣れなわけですが、ヘルプデスクがメールしかなく、しかも、問い合わせても返事がなかなか返ってこない。これには本当に困りました。

基本的には、比較的時間に余裕がある夜勤のスタッフに入力をしてもらうように段取りをしていきました。夏以降はスタッフ総出で情報を集め、なんとかフィードバックまで漕ぎ着けた状況です。

菊地●たまたま北海道老人保健施設協議会から、株式会社レゾナのi・MEDICを使い、薬を二次元コードで読む実証実験の依頼があり、薬剤情報だけの入力というかたちで、CHASEを導入しました。原田さんのおっしゃる通り、IE（インターネットエクスプローラー）でしか動かないため、インストールの時点で苦労しました。

私たちは介護ソフトにNDソフトウェア株式会社の「ほのぼの」を使っていますが、CHASEへのCSVファイルの出力エラーが頻出し、データ連携がうまくいきませんでした。また、医師や看護師がCHASEへの出力に対応していない部分に薬剤情報を入力していたという事態も発生し、CHASEとの連携がまったく取れず、後から私がすべて手打ちで薬剤情報をCHASEの画面上で入力することに……。当初は10名ほどのサンプルで進める予定でしたが、これでは難しいということで、結局、4名のみになりました。「使い勝手が良くないな」というのが正直な印象です。

――システム制作側として、竹下さんの見解を教えてください。

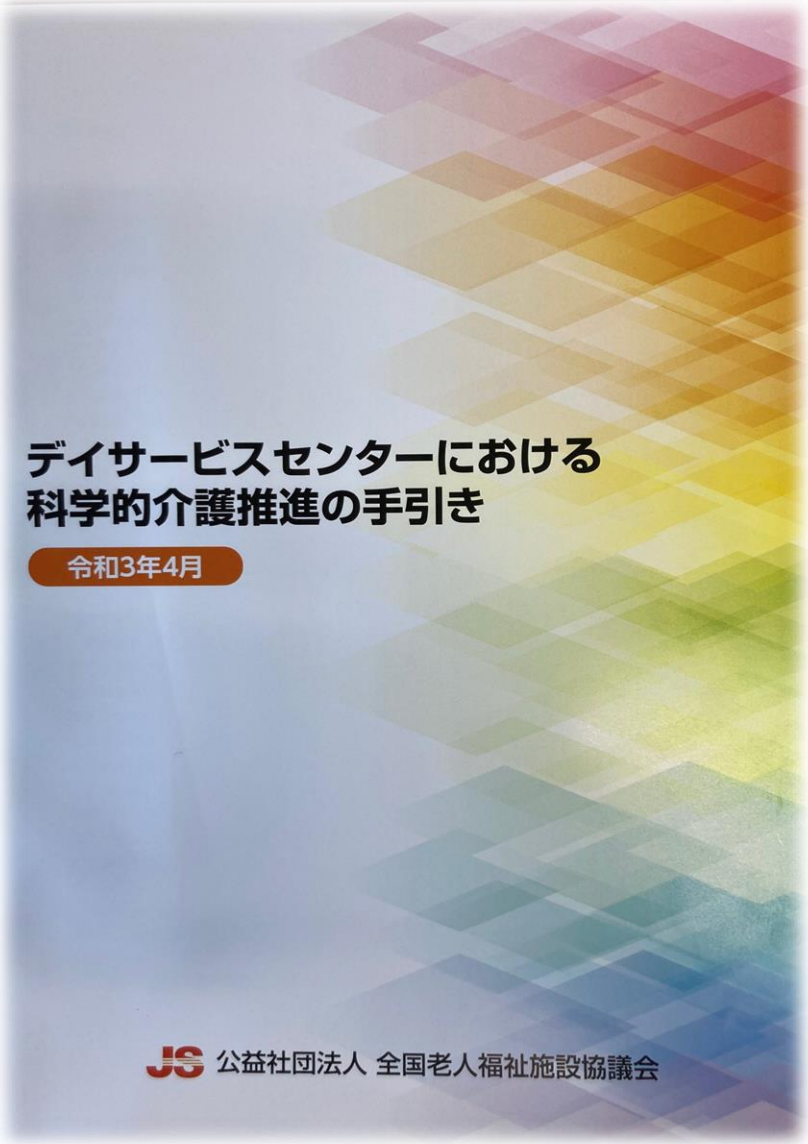
竹下●今回のLIFEのデータベースは、基本的に介護ソフトにあるデータを〝正〟として取り込む

(C) 2021 日本医療企画

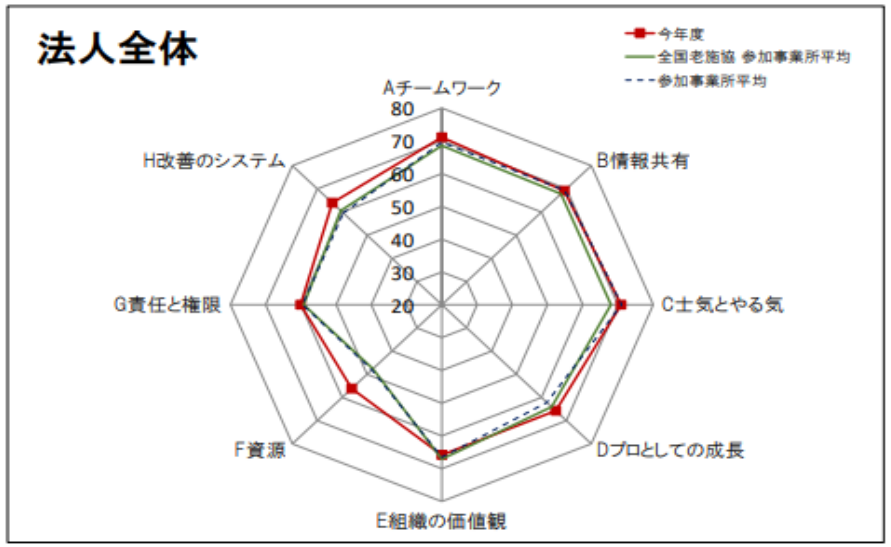
2021.3 レバレジーズ株式会社 Webサイト
「きらケア研究所」掲載



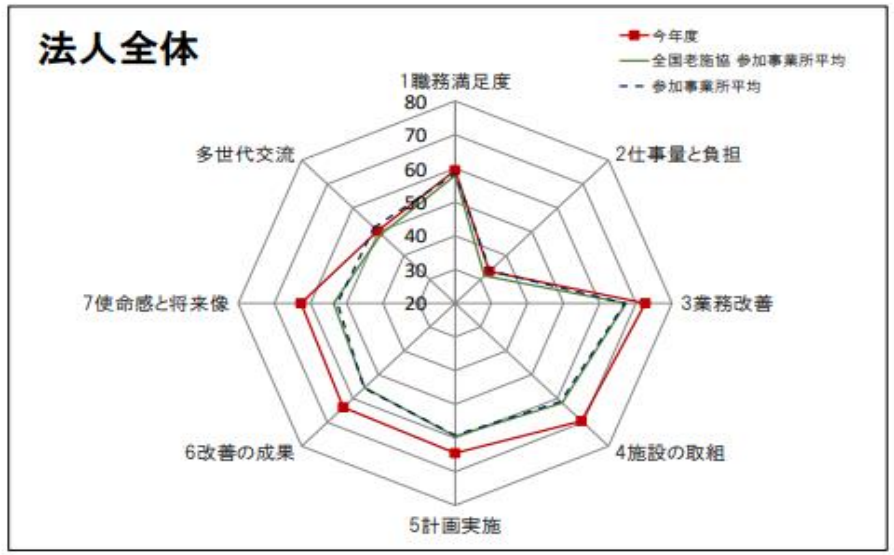
2021.4 公益社団法人全国老人福祉施設協議会
「デイサービスセンターにおける科学的介護推進の手引き」作成WT参画



2021.3　京都大学大学院医学研究科医療科学分野
「介護事業所組織文化に関する調査」協力



©京都大学 大学院医学研究科 医療経済学分野＆日本医療経営機構



©京都大学 大学院医学研究科 医療経済学分野＆日本医療経営機構

2021.6 高齢者住宅新聞社
「高齢者住宅新聞」連載コラム「LIFE活用による介護DX推進」に当ホームスタッフ画像が掲載



LIFE活用による介護DX推進

デジタルトランスフォーメーション

第2回　システム導入における苦労と喜び

株式会社
ブルーオーシャンシステム
営業部 営業課課長
沖本　崇
（おきもと　たかし）

映像制作会社、ブライダルカメラマンから介護業界へ入職。営業部門、カスタマー部門を経て現在は主に営業推進、広報活動に従事。創業から介護業界のDX化を推進する会社の思いを伝えるエバンジェリストとして活躍中。

今回は記録システム導入から本稼働までの苦労話をお伝えします。背景に介護業界全体として「パソコンが苦手」「手書きに慣れている」等の現場の意見が多く、推進するプロジェクトリーダーの責任は重大です。

導入当初が肝心で三大介護（食事、排泄、入浴）およびバイタルなどの簡単な介護記録から無理なく始めることが秘訣です。離脱者を出すことなく全職員が一丸となって取り組み、無理が生じた場合に課題を全員で共有し、すぐに修正します。そして入力した記録に自信が持てるようになれば、ここからは活用の幅が急速に拡大します。全員で取り組んだ結果として、システムを活用した情報共有が自然と始まり、専門職の方は現場の介護記録を必要な材料として活用することで、即時の判断とリスク軽減に寄与するなど業務改善を継続できる組織に変革します。

奮闘するプロジェクトリーダーたち

振り返ってみると、手書き運用時点での課題であった「属人的なノウハウ継承」「情報集約の遅延」「膨大な記録転記作業」から解放され、介護記録から読み取る判断が自然と身につく効果が出て、多職種間でもシステム活用を前提とした運用ノウハウが形成されます。

一方で、LIFEの取り組みは国が開始した介護DX推進とも言えます。法人が推進している介護DXと一体的に取り組み相乗効果を得ることが理想ですが、4月提出分作成にあたり膨大な入力作業に追われ、システム運用が重複したように感じる現状を危惧する声も多くなっています。国と法人が進める介護DXの方向性を業務の中で一致させ、奮闘するプロジェクトリーダーとスタッフの知識と力に変換できるよう柔軟に推進することが成果を得るための方策になりそうです。

次回は現場で推進された取り組みが法人全体の成果となった事例を紹介します。

▲現場の意見を中心にICTが推進した。特別養護老人ホーム「鈴鹿グリーンホーム」

2021.7 厚生労働省「BPSDの軽減を目的とした認知症ケアモデルの普及促進に関する調査研究」選定(公募窓口:全国老施協、推薦：三重老施協、実施主体:認知症介護研究・研修東京センター)

東京都の取組 > 認知症ケアプログラム推進事業 > 「日本版BPSDケアプログラム」アドミニストレーター研修

「日本版BPSDケアプログラム」アドミニストレーター研修

「日本版BPSDケアプログラム」アドミニストレーター研修

東京都では、公益財団法人東京都医学総合研究所と協働して開発した、認知症の行動・心理症状（ＢＰＳＤ）の改善が期待される「日本版ＢＰＳＤケアプログラム」（以下「ケアプログラム」という。）の普及により、認知症ケアの質の向上に取り組んでいます。

このケアプログラムは、介護サービス事業所や地域において、認知症ケア質の向上のための取組を推進する人材を養成するとともに、BPSDの症状を「見える化」するオンラインシステムを活用し、ケアに関わる担当者の情報共有や一貫したケアの提供をサポートするものです。 アドミニストレーター研修は、介護サービス事業所等において、オンラインシステムを活用したケアを実践する「アドミニストレーター」を養成する研修です。

※　日本版BPSDケアプログラムについてはこちらを御覧ください。

目的

介護サービス事業所等の職員が、ケアプログラムを実践するための「アドミニストレーター」として、必要な知識及び技術を習得する。

日時・定員等

（1）形式
　eラーニング研修（標準所要時間4時間）
（2）開講期間
　令和3年11月15日（月曜日）から令和3年12月17日（金曜日）
（3）定員
　10名程度
　※申込み多数の場合は、地域のバランス等を考慮の上、受講者を決定します。

出典：「日本版BPSDケアプログラム」アドミニストレーター研修　｜ 東京都の認知症ポータルサイト とうきょう認知症ナビ (tokyo.lg.jp)

2021.9 日刊木材新聞
「ウッドショック下における木材の連携調達」掲載
（10月、同様の記事が読売新聞オンラインに掲載）



木材新聞　第3種郵便物認可　(6)

非住宅木造の木材調達担う

社外連携でオール国産材を実現

松阪木材

松阪木材（三重県松阪市、久保覚社長）は、社会福祉法人鈴鹿福祉会（同鈴鹿市、中村敏理事長）が年内竣工を予定する木造の短期入所者施設「ショートステイ鈴鹿グリーンホーム翠風（仮称）」（鈴鹿市）の木材調達を担った。ウッドショックのなか、当初使用が予定されていた輸入材を国産のカラ松ほかに切り替え、構造材をオール国産材で提案。林野庁の補助金事業も視野に入れ計画を進めた。

年初の見積もり段階から、横架材（梁・桁）となるRウッド集成材、間柱や筋違となるWウッドの調達が見通せず、施工を手掛ける丸亀産業（松阪市、竹上景太社長）から地域内外にネットワークを持つ松阪木材に相談があった。

松阪木材では、構造材をほぼ国産材とすることで物件対応が可能と判断。Rウッド集成材の代替となるカラマツ集成材のラミナ調達を、日本製紙木材（東京都、羽山邦彦社長）に依頼。これを、けせんプレカット事業協同組合（岩手県気仙郡、泉田十太郎代表理事）が約100立方㍍の集成材に加工した。また、大断面を含む約90立方㍍は協同組合東濃ひのきの家（岐阜県中津川市、中島紀子代表理事）に依頼した。土台・間柱等のムク構造材は、田中林業（松阪市、田中善彦社長）に依頼し、グリーンウッドタクミ協同組合（同、浦田理代表理事）で約60立方㍍の製品を製材した。

建設が進む深溝グリーンホーム竹は、木造建築士事務所（三重県鈴鹿市、岡村信之社長）が担った。

松阪木材は、同社や丸亀産業と木材の調達やスケジュールに関する情報を共有。JAS構造材利用拡大事業の補助金を活用するためには非常に厳しいタイムスケジュールだったが、構造材や羽柄材の大半をJAS製品で調達し申請に間に合わせた。

松阪木材ウッドピア21事業部営業課長で、三重県木材協同組合連合会が奨めるサプライチェーンマネジメントの木材コーディネーターも務める中野貴文氏は「川中に立つ松阪木材がハブとなり、県産材活用に意欲的な岡村建設、丸亀産業、日本製紙木材やけせんプレカットなど関係する企業がチームワークを発揮し、連携がうまく機能し、非住宅木造物件の国産材対応を実現した。ウッドショックの渦中だけに、通常業務に影響のないよう材料調達は国産材を供給する一つのモデルケースになり得るだろう」と話している。

上（建設工事が進む「ショートステイ鈴鹿グリーンホーム翠風（仮称）」）、下（完成予想図・左下）

強風対策のための説明会開催

日本住宅・木材技術センター

日本住宅・木材技術センター（東京都）は2日、強風対策に対応したZマーク表示金物についての説明会をオンラインで開催した。

建築金物の製造業者やハウスメーカーなどが参加した。

2019年に発生した台風15号は千葉県を中心に甚大な建物被害をもたらし、屋根瓦の脱落や住宅の小屋組の損壊などが見られたほか、小屋組についても各地域で想定される風速の大きさに応じた小屋組接合の強化が求められている。

説明会では、耐風性向上に向けた小屋組の接合金物のほか、各地域の基準風速などに応じた接合方法、Zマーク金物の承認工場などについて同センターの担当者が解説した。

なお、「第5回あいち木づかい表彰」の募集開始　愛知県

愛知県は、「第5回

2021.9
令和３年度東海北陸ブロック老人福祉施設大会(みえオンライン大会)研究事例発表(6年連続)



2021.9　伊勢新聞
「令和３年度東海北陸ブロック老人福祉施設大会の受講の模様」掲載



2021年9月22日（水）　伊勢新聞

社会　政治　経済　スポーツ　地域　コラム　特集・連載　天気

伊勢新聞 > 北勢 > 鈴鹿　介護職員ら先進事例学ぶ　老人福祉施設研究大会　三重

伊勢新聞社のSNS

鈴鹿　介護職員ら先進事例学ぶ 老人福祉施設研究大会　三重

2021-09-15　北勢, 地域

【動画を視聴する介護職員ら＝鈴鹿市深溝町の鈴鹿グリーンホームで】

【鈴鹿】三重のほか富山、石川、名古屋市など６県１市による「東海北陸ブロック老人福祉施設研究大会　三重オンライン大会」（同施設協議会など主催）が、このほど始まった。同ブロック内の介護福祉事業所370施設が参加し、「最期の一瞬まで、自分らしく生きられる社会へ」をテーマに、介護職員らが動画を視聴し、先進事例などを学ぶ。30日まで。

同研究大会は職員の資質向上を目的に、毎年各県の持ち回りで実施。昨年は四日市市で開催予定だったが新型コロナウイルス感染症の影響で延期となり、今年は初のオンライン開催となった。

2021.9　中日新聞
「コロナ禍で窓越しの面会」掲載

トップ　新着　動画　写真　ランキング　今日のニュース　スポーツ速報

【新型コロナ特集】最新感染状況と関連ニュース

ニュース ＞ 地域 ＞ 「愛してる」　鈴鹿の特養、コロナ禍で窓越しの面会

「愛してる」　鈴鹿の特養、コロナ禍で窓越しの面会

2021/09/21 05:00　中日新聞



窓越しに面会する坂本紀生さん（右端）と妻京子さん（左端）＝鈴鹿市深溝町の鈴鹿グリーンホームで

長期化するコロナ禍で直接の対面が難しい中、鈴鹿市深溝町の特別養護老人ホーム（特養）「鈴鹿グリーンホーム」ではオンラインや窓越しの面会を続けている。敬老の日の二十日には、四日市市和無田町の坂本紀生さん（７８）が花かごを手に、長女（４６）と、七月から入所する妻京子さん（８７）に会いに来た。

(中日新聞Web)

最初はタブレット端末でオンラインの対面を試みた坂本さん。ただ、京子さんが認知症を患っていることもあり、会話が続かなかった。だが、その後、窓越しに京子さんと顔を会わせると、その表情が一変。車いすから、笑顔で二人の顔を見上げた。

坂本さんが「元気ですか」と聞くと「元気ですよー」と応じた京子さん。別れ際に「愛してるよ」と伝えた坂本さんに、得意な英語で「Ｉ　ｌｏｖｅ　ｙｏｕ」とつぶやいた。

対面後、坂本さんは「寂しいが、元気そうで安心。コロナが収束したら一晩くらい家に連れて帰りたい」と話した。

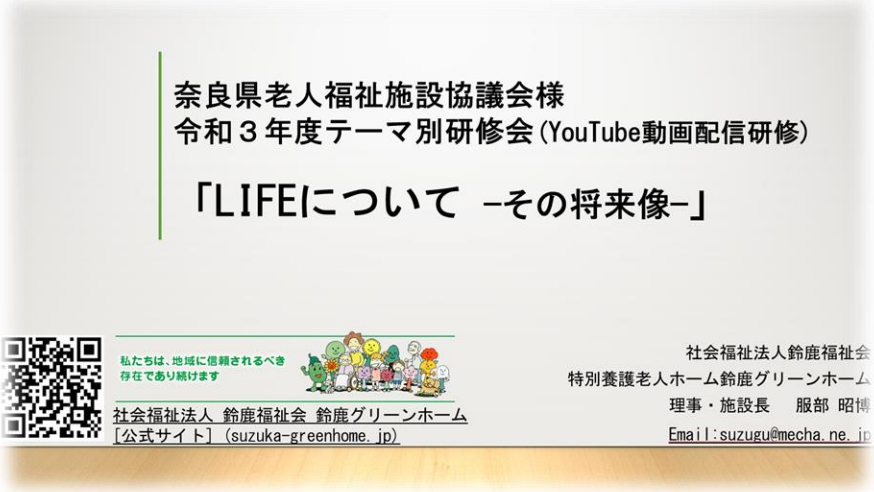
施設では昨年五月からオンラインと窓越しでの面会を実施。窓越しでの面会のニーズが高いといい、施設長の服部昭博さん（４９）は「感染状況の濃淡を見極めながら、リアルとオンラインの使い分けをしていく必要がある」と話した。　（須江政仁）

敬老の日　認知症　感染　特別養護老人ホーム・介護老人保健施設

2021.10三重県福祉人材センター
「みえ働きやすい介護職場取り組み宣言」事業所にかかる動画撮影



2021.11 奈良県老人福祉施設協議会「LIFEに関する県研修会」講師



2021.10　伊勢新聞
「最先端の会議現場へICTやロボット活用」掲載



(15)　令和3年(2021年)10月18日　月曜日

最先端の介護現場へ

鈴鹿・ICTやロボット活用

特別養護老人ホームなどを運営する鈴鹿市深溝町の鈴鹿グリーンホーム（服部昭博施設長）で、ICT（情報通信技術）機器や介護ロボットを活用した最先端の介護現場づくりが進んでいる。（蔵城洋子）

先進的な取り組みは九月、「安全衛生努力賞」を受賞した。服部施設長（49）は「元々高齢者の割合が高い地域でもあり、現場では先進的というよりも、現状に合わせているという認識。鈴鹿の未来の姿として見てもらえれば」と話す。

高齢化率は六月末現在で25・4％。一方、同施設のある深伊沢地区は31・1％、近隣地区の庄内地区は38・3％、椿地区は33・8％など、いずれも市の平均を上回る。

高齢者数の増加を見据え、同施設は平成二十八年から介護ロボットの導入を始めた。現在は見守り支援ロボットや排泄予測ロボットなど九種類と、タブレットやインカムなどのICT機器を組み合わせて活用する。

新たな技術で効率化図る

例えば、見守り支援ロボットはベッドマットレスの下に設置し、高齢者の呼吸や脈拍、睡眠、覚醒、ベッド上での座位が職員の端末で確認できる。排泄ロボットは膀胱部に貼ることで、膀胱の尿量が職員の端末で確認でき、適切なタイミングでの排泄を支援する。

服部施設長は「これまで職員が夜間の巡視で高齢者から『眠れない』と苦情を受けたり、経験値頼りでトイレ誘導し、互いに疲弊やデータのグラフ化で居室に入るタイミングや排泄のタイミングが的確につかめ、双方のストレス軽減につながっている」と話す。

令和二年度に入居者家族を対象に実施したアンケートでは、新たな技術を使用した介護について89・4％が肯定的な回答をした。

そのほか、介護・看護記録などをデジタル化し、インカムで職員間の業務連絡も情報共有することで仕事の効率化を図り、

三重まる見えリポート　602

2021.10 三重労働局主催講習会
「安全衛生努力賞」にかかる取組事例報告



2021.11.15 シルバー産業新聞社
「LIFEフィードバック　暫定版から施設の状況を読み解く」掲載

ニュース | 2021/11/15

ＬＩＦＥフィードバック　暫定版から施設の状況を読み解く

2021年　シルバー産業新聞



科学的介護を目指し、２０２１年度介護報酬改定では、利用者の身体状況と提供したケア内容等を国へ提出する科学的介護情報システム「ＬＩＦＥ」がスタートした。６月と８月、１０月にはフィードバックが行われたが、内容は情報を提供した事業所の状況と、各項目の全国割合と該当者数を確認することのできる「暫定版」にとどまる。暫定版フィードバックを活用して、科学的介護に取組む特養「鈴鹿グリーンホーム」にデータ分析方法などについて話を聞いた。

現場の分析力を高めて、今後のケアに繋げる

社会福祉法人鈴鹿福祉会（中村敏理事長）が運営する特養「鈴鹿グリーンホーム」（三重県鈴鹿市、服部昭博施設長）では、今年４月よりＬＩＦＥへの情報提供を行っている。

現在、ＬＩＦＥのフィードバックでは利用者の身体状況などを全国平均と比較したデータのみ返されている。同施設では暫定版フィードバックから効果があるケアを読み取り、ケア内容に反映している。

暫定版フィードバックの分析

トップページ　お役立ちコンテンツ　新聞の申込　書籍案内

「上記のデータから、当施設では比較的重度な認知症者が多いが、意思疎通ができるなど穏やかな生活が送れていると読み解くことができる。つまり、ＢＰＳＤがでないケアがしっかり実践できている」と服部施設長は分析する。

一方で、明らかな外れ値等も見られることから、自分たちの施設にとって何が必要なデータかを見極めることも重要となる。どのケアに積極的に取組み、また評価できるケアは何かを把握することで、根拠のある介護を実践している。

ＬＩＦＥの取組みには業務効率化が必須

同施設では、ＣＨＡＳＥが開始した段階で今後、現在のＬＩＦＥのような情報提供システムが必須となると予測し、人材やシステム等の体制を３年前より整えてきた。

まず、データ入力に必要な各種計画書の入力・作成を行う専門職を育成するため看護師、管理栄養士、ケアマネジャーを積極的に採用。さらに、見守りセンサー等の介護ロボットを導入するためにネットワーク環境を整え、データ入力のためのタブレット端末を整備した。

服部施設長は「ＣＨＡＳＥなど新しいことに取組む際は、業務改善とセットで考えなければ、現場の負担が大きくなってしまう」と強調する。このほか、システムベンダーと連携してＣＨＡＳＥに対応するシステム開発にも取り組んだ。

ＬＩＦＥが開始してからは、まず管理栄養士など専門職が加算算定に必要な計画書を作成。現場スタッフが夜勤の空き時間等を活用しながらデータをシステムに入力する。その後、各分野の専門職と生活相談員が登録内容の最終チェックを行う。

生活相談員でＬＩＦＥの管理者の原田崇史さんは「高齢者人口は増え、働き手世代が減少する２０４０年を目指して、ＩＣＴ化や人手に頼りすぎない介護手法を考えていかなければならない。現場が負担なくＬＩＦＥに取組めるよう、体制を整えていく」と話す。

2021.11 中日新聞社

『三重労働局 令和3年度安全衛生に係る優良事業場「安全衛生努力賞」』に関する取材(介護ロボット)





中日新聞

介護ロボで負担を軽く

介護の現場にロボットを導入する動きが広がっている。民間調査会社によると、市場規模は年々拡大し、二〇二三年度には二十五億円を超える見通し。人手不足や、利用者の移動を支援する際に腰を痛めるなど職員の負担が大きいことなどが背景にある。ロボットの活用で、現場の負担を軽減する効果が期待されている。（横田浩熙）

鈴鹿の特養 労災防止へ積極活用

一六年から最新の介護ロボットを導入してきた鈴鹿市深溝町の特別養護老人ホーム「鈴鹿グリーンホーム」。現在、職員に装着し、体への負担を軽減する「パワースーツ」など九機種を配備している。

今年二月に投入した移乗支援ロボット「SASUKE（サスケ）」は、ハンモック状のシートで寝たきりの利用者を支え、横になったまま持ち上げることができる。レバー操作のみで移乗作業ができることから、職員の多賀ひとみさん（四九）は「腰が痛くなることはなく、利用者本人も安定した楽な姿勢でいられる」と利点を話す。

ほかにも利用者の排せつのタイミングを予測するロボットや、夜間に利用者が眠っているかどうかを把握できるセンサーを備えたロボットなどがある。

厚生労働省によると、腰痛などの労災は、約三割が利用者をベッドから車いすへ移し替える「移乗作業」で起きる。

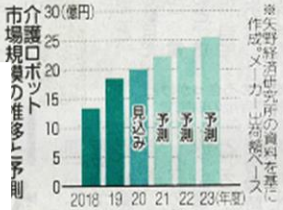
特に利用者がベッドから自力で起き上がれない場合、介助者は利用者の体を抱きかかえなければならず、腰への負担が大きい。同施設によると、職員一人当たり一日二十回以上も移乗作業をすることもあるという。

服部昭博施設長（四九）は「職員がけがで離職し、シフトに穴があいてしまうと、他の職員の負担が増してしまう」と、マネジメント面でも介護ロボットを積極的に導入する意義を強調。「少子高齢化により、高齢者が増える一方、働き手は減ってゆく。業界をリードする覚悟で、さまざまな試みに挑戦し続けたい」と話している。



介護ロボットを使って利用者を寝かせたまま移乗する職員＝鈴鹿市深溝町の鈴鹿グリーンホームで

国内市場 拡大見込み

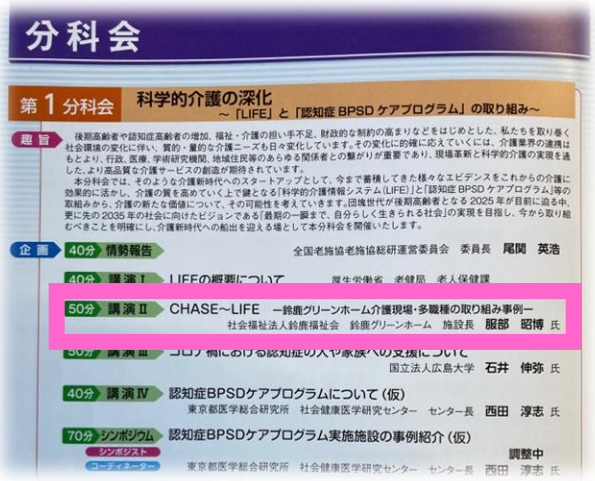


三菱UFJリサーチ&コンサルティングの加藤純悟マネージャーは、新型コロナウイルス禍で人と人との接触を減らすため、ロボットの価値が見直されていることも市場拡大の一因と分析。「メーカー側が介護現場のニーズを突き詰めていけば、今後もしっかり普及してゆく」と話した。

2021.11.18 中日新聞朝刊

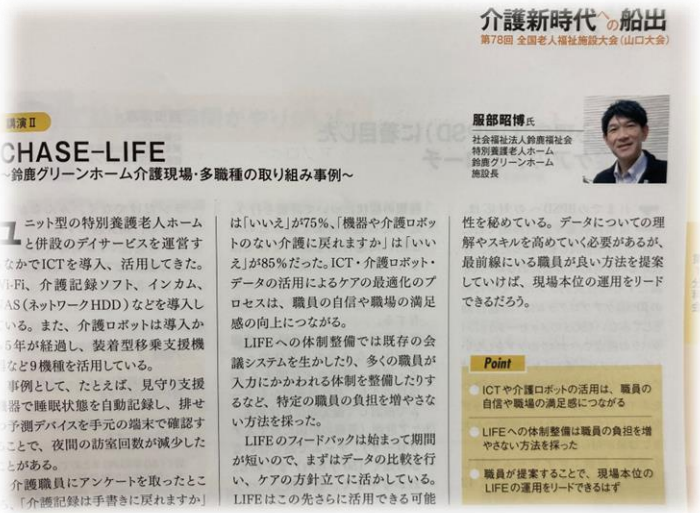
2021.11 公益社団法人全国老人福祉施設協議会
「第78回全国老人福祉施設大会(山口オンライン大会)」講師





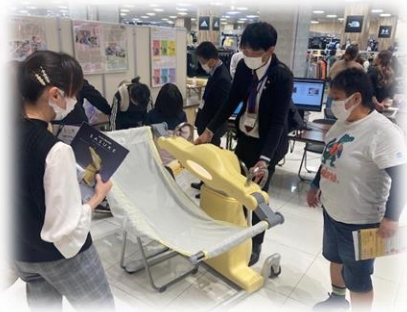


大会報告冊子(2022.3)

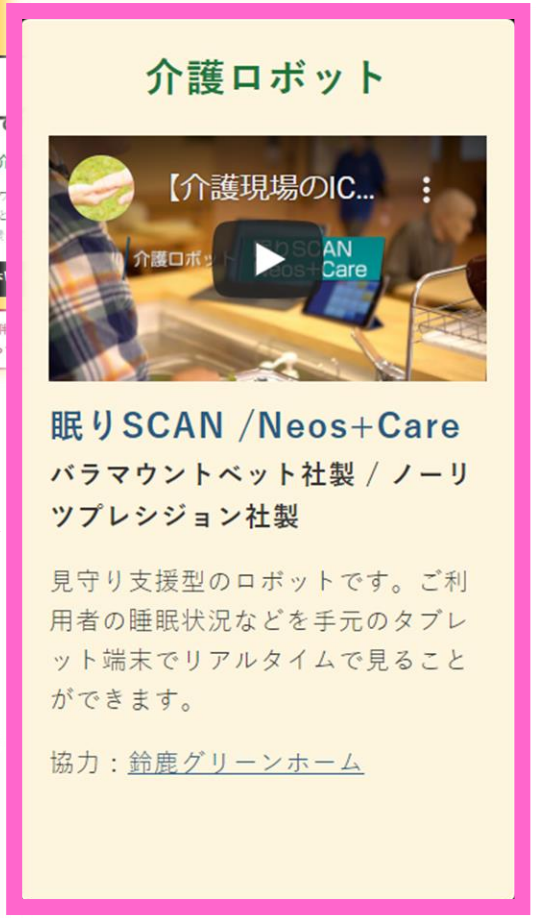


2021.11 三重県・社会福祉法人三重県社会福祉協議会
「みえ介護フェア2021」参画（イオンモール津南とオンラインのハイブリッド開催）









2021.12 伊勢新聞掲載

『「ショートステイ開所ー積極的に介護ロボ活用ー』



北勢

Local News

北勢総局 鈴鹿市自由ケ丘1-17-1-202

☎059(373)4110 FAX059(374)2104

ショートステイ鈴鹿開所

きょう 岸田町に 積極的に介護ロボ活用

【鈴鹿】鈴鹿市岸田町の単独型短期入所生活介護事業所「ショートステイ鈴鹿グリーンホーム翠風（服部昭博施設長）」がこのほど完成し、一日に開所する。同市深溝町の特別養護老人施設「鈴鹿グリーンホーム」を運営する鈴鹿福祉会が、高齢化に伴う地域の需要に対応し、新規開設した。

施設は敷地面積約二千六百平方メートル、建築面積約千百平方メートルの木造平屋建て。利用定員は二十人。居宅介護支援事業所を併設する。

積極的な介護ロボットの導入が特徴で、利用者の睡眠時の呼吸や脈拍の状態、1日に開所の「ショートステイ鈴鹿グリーンホーム翠風」（鈴鹿市岸田町で

各居室での状況を職員がスマートフォンなどの端末で常時把握し、適度な距離感を保ちながら見守る。

そのほか、災害対策としてガスで発電する機能を備えた。

服部施設長は「木の温みがある建物の中で、最新のテクノロジーを組み合わせて活用していく。地域の人たちに安心して活用してもらえる施設になれば」と話していた。（蔵城洋子）

きょうの指数情報

四日市

洗濯 2.乾きにくい

紫外線 2.やや強い

風邪ひき 2.注意

【凡例】洗濯指数：1乾かない、2乾きにくい、3乾く、4よく乾く
紫外線：1弱い、2やや強い、3強い、4非常に強い、5きわめて強い
風邪ひき指数：1予防、2注意、3警戒、4厳重警戒

日本気象協会提供

購読お申し込みは

本社販売局

☎059(224)4400

フリーFAX

0120(26)3554

伊勢新聞（2021.12.1）

2021.12 福祉新聞掲載

『「ロボットのない介護に戻れない」ー導入から５年、労働負担を軽減ー』

「ロボットのない介護」に戻れない

導入から5年、労働負荷を軽減

特養 鈴鹿グリーンホーム（三重）

高齢者人口が最大となる2040年問題を見据え、三重県鈴鹿市の特別養護老人ホーム「鈴鹿グリーンホーム」（社会福祉法人鈴鹿福祉会）は、5年前から10種類の介護ロボットを導入し、ICT（情報通信技術）も活用してきた。職員アンケートでは、「機器やロボットのない介護に戻れますか」という質問に85%が「いいえ」と回答。現場の負担を減らし、介護の質の向上を実現している取り組みとして、脚光を浴びている。

「鈴鹿グリーンホーム」さんは、「将来職員が減っても、どう介護の質を維持が介護看護記録の電子化向上していくかを考えた」や介護ロボットの導入を始めたのは16年。当初は「介護は人がするもの。なぜロボットを入れるのか」と抵抗的な意見もあった。当時、鈴鹿市の高齢化率は29.9%と高く、40年には34%になると予測されていた。

導入が決まりました」。助成金などを利用して少しずつ種類を増やし、現在、インカムなどの10種類の介護ロボットを組み合わせて使っている。

例えば、手元のタブレットで室内の利用者の状況がシルエットで把握でき見守り支援ロボットと排せつ予測ロボットを組み合わせ、夜間のスムーズな排せつとヒヤリハット防止に活用。高齢者の睡眠を妨げず、夜勤職員の負担軽減につながっている。

腰痛予防の移乗支援ロボットは、ハンモック状のシートで寝たきりの高齢者を移乗するロボットや、衣服型の介護用パワーアシストスーツなどを状況に応じて使い分けている。

「最初はニットリーダーに周知し、全員で目的を共有。利用者さんのニーズに合う形で使えるかどうかを試しながら、使い勝手や費用対効果を見て検討する。実際に役立つと感じれば、みんなが積極的に使う。使い勝手などについて要望があれば、メーカーに伝えています」と、原田さん。

85%の職員がロボットの有効性を体感。介護現場の負担軽減を図る最先端の取り組みと評価されて、三重県労働局の21年度「安全衛生努力賞」を受賞した。

「各機器が一つのインターフェイス（接続装置）に連動し、腕時計や衣服につけたまま使えるウェアラブルデバイスで利用者の情報を把握して記録できるようになれば、介護の未来は変わる」。そんな、期待の声が広がっている。

視点 厚生労働省はレスセンター（大阪市）は20年から、で介護ロボットの相談窓口を担当する江藤幸子さんは「介護ロボットを導入しても、そこに合ったオペレーションを組んで相談窓口を設けて、介護施設全体で取り組まなければ、効果は出ない。最初に施設の課題を洗い出し、どういう代使うか普及までを支援するプラットフォーム事業をスタートさせた。全国14カ所で相談窓口を設けて、介護ロボットを導入したい施設などの相談に応じている。

今年4月からの介護報酬改定では、見守りロボットを導入した場合に夜勤の人数を緩和する措置が拡大されたが、施設によって課題や状況は異なる。

介護・福祉・健康の常設展示場「ATCエイジ」の取り組みは、先進事例まで想定して活用させることが大切です」と話す。

その意味で、現場の声を反映しテクノロジーを活用した職場づくりを自々工夫して進めている「鈴鹿グリーンホーム」



衣服型パワーアシストスーツで腰の負担を軽減



介護ロボットの導入を進めてきた原田さん（右）と古川敏基さん

福祉新聞（2021.12.21号）



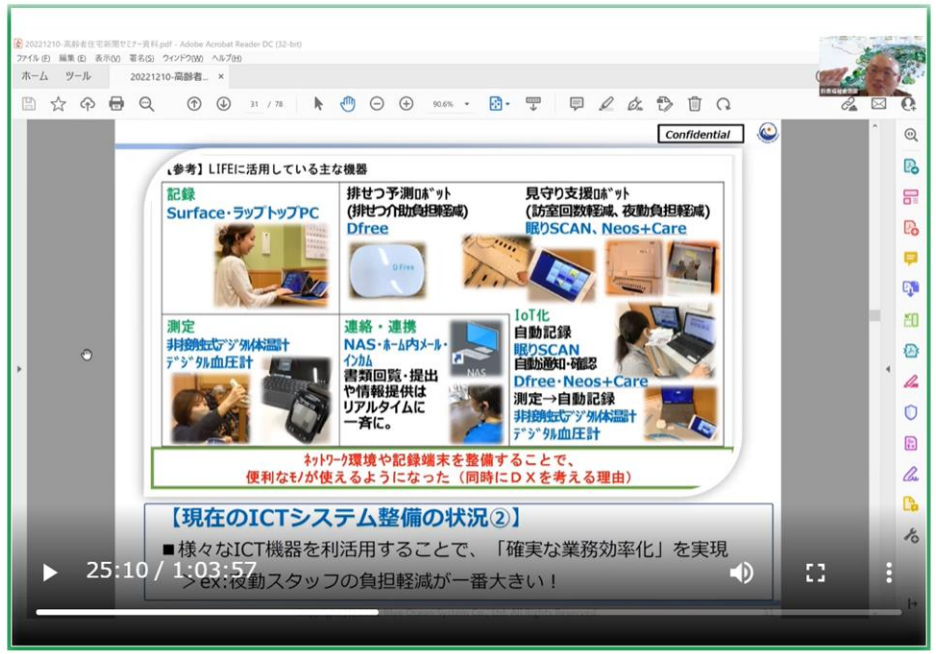


2021.11　介護ﾛﾎﾞｯﾄの新たな活用

装着型移乗支援ロボット「J－PAS」をショートステイの送迎において使用



2021.12.10 高齢者住宅新聞社
「第7回 住まい×介護×医療サミット」登壇



2022.1.12 株式会社BlueOceanSystem、ｸﾚｲﾄﾞﾙやけやま様(新潟県)、高齢者住宅新聞社(取材)
「LIFEに関する意見交換会」



2021.12.13 日本経済新聞
「日経ﾋﾞｼﾞﾈｽ 底流 介護データベースは助走中 遠いケア最適化」掲載

日経ビジネス（2021. 12. 13）

図表を保存

今春、インターネット上で一風変わったイベントがあった。「LIFE（ライフ）入力選手権」。高齢者施設の職員が介護記録をいかに早く効率的にデータ入力できるかを競った。

LIFEは厚生労働省が「科学的介護情報システム」と銘打って2021年度から運用を始めたデータベースの取り組みで、全国約6万施設が参加登録した。介護記録を集め、ケアの効果を分析し、サービスの改善に役立てる狙いがある。

問題はデータ入力に手間がかかることで、現場から不満が漏れていた。選手権では、アンケート形式で質問に答えるだけで入力できる手作りソフトも登場した。主導した九州工業大学の井上創造教授は「データ入力でつまずく施設が多く、先進事例を共有するために開催した」という。

厚労省はデータ入力に応じる施設に介護報酬加算を上乗せし、IT（情報技術）環境の整備に補助金もつける。躍起になるのは介護サービスの適正化が大きな課題になっているからだ。介護は勘と経験頼みで、客観的な評価が難しい部分もあった。「高い報酬を得るためにケアを上乗せする施設もある」とささやかれてきた。

日本の介護給付は年10兆円を超え、保険制度が始まった00年度の3倍に以上に膨らんだ。財政は火の車だ。財源の半分を占める保険料は平均月6000円を超えた。「これ以上、上げるのは難しい」（厚労省幹部）との見方がある。

データベースをうまく活用できれば無駄をあぶり出せる。もちろん施設側にもメリットはある。特別養護老人ホームなどを運営する鈴鹿グリーンホーム（三重県鈴鹿市）の服部昭博施設長は「今後、介護人材が足りなくなるのは明らか。ケアの最適化が必要な段階だ」と期待を寄せる。

まだ軌道に乗るには至っていない。9月下旬、厚労省の専門家会議ではこの先の展望を問う声が出た。今は苦労して記録を入力しても、全国平均などの統計データが返ってくるだけ。ニッセイ基礎研究所の三原岳氏は「フィードバックがわかりにくい」と指摘する。介護の改善に生かす段階は遠い。

「数年後には個々人に必要なケアが例示できるようになる」という厚労省の説明に関係者は半信半疑だ。かたちばかりのシステムに終わるなら、貴重なデータも宝の持ち腐れになる。助走が長引くようだと、介護の適正化はかすむ。

2021.12 三重県社会福祉協議会
「みえ働きやすい介護職場取組宣言事業所」メッセージ動画」Web公開



【みえ働きやすい介護職場取組宣言】社会福祉法人鈴鹿福祉会 ~働きやすい介護職場に向けた法人の取り組みについて~

9 回視聴・2021/12/21　0　低評価　共有　保存　…

みえ働きやすい介護職場取組宣言
チャンネル登録者数 1 人

チャンネル登録

社会福祉法人鈴鹿福祉会の働きやすい介護職場に向けた法人の取り組みを紹介します。

◆社会福祉法人鈴鹿福祉会

もっと見る



2020年度は「介護ロボット(見守り支援機器)の現場活用動画」を公開

2022.1　高齢者住宅新聞
「LIFEデータを深掘」掲載



第9回　LIFEフィードバックの活用事例

LIFE活用による介護DX推進

デジタルトランスフォーメーション

株式会社
ブルーオーシャンシステム
営業部 営業課課長
沖本　崇
（おきもと　たかし）

映像制作会社、プライダルカメラマンから介護業界へ入職。営業部門、カスタマー部門を経て現在は主に営業推進、広報活動に従事。創業から介護業界のDX化を推進する会社の思いを伝えるエバンジェリストとして活躍中。

今回は社会福祉法人鈴鹿福祉会が運営する三重県の特別養護老人ホーム「鈴鹿グリーンホーム」の事例を紹介します。

LIFEの前段であるCHASE実証実験に参加し、必要なPCネットワークの整備と関連加算取得に必須である専門職の採用を推進されました。併せて、職員全員がPC入力する必要性を強く感じ、教育体制の見直しと多職種連携の運用手順の見直しも実施しました。さらに、職員のPC入力による「負担増」に対し介護ロボットを活用することで夜勤業務の省力化を図り、バランスを取りました。ここでは事前のネットワーク整備が功を奏したようです。

現場職員からは「不安はあったものの、いざLIFE運用が始まると、従来から取り組んで来た24時間プランを中心としたケアプランのPDCAサイクル活用に加え、LIFE帳票を通じて『気づきの機会』が増加し、生活改善の具体的な取り組みができた」と成果を実感されています。さて、業界全体で大きく期待されるフィードバック活用ですが、現在まで暫定版データの提供に留まり具体的な利活用ができないとの意見も聞かれます。

鈴鹿グリーンホームでは、事業所グリーンホームより認知症高齢者の日常生活自立度を中心に、要介護度、認知症診断結果、バーセルインデックス合計点などのデータを「全国平均」と「当ホーム」とを比較し施設の従来方針である基本的な認知症ケアを徹底することに間違いがないことが確認できました。またデータを用いれば、利用者家族や関連機関へホームの取り組みや実績を説明できます。さらに三重県内の工業地帯、山間部、都市部などのエリアごとにデータを区分できればより活用の幅が広がりそうです。

次回はユーザー自身で作成したオリジナル操作研修マニュアルより、ケア現場に応じた活用事例を紹介します。

暫定版データから読み取れること

▲鈴鹿グリーンホームではLIFEフィードバックデータを活用している

2022.2高齢者住宅新聞
「LIFE活用による介護DX推進ー第9回コラム フィードバックの活用事例ー」掲載



高齢者住宅新聞　2022.2.2（毎週水曜日発行）　（4）

介護Biz

LIFEデータを深堀

FB活用 ケアの方向確認に

科学的介護情報システム「LIFE」のフィードバックが昨年から始まった。現状では、どのように活用すべきか分からない、という声も多い。社会福祉法人鈴鹿福祉会「鈴鹿グリーンホーム（三重県鈴鹿市）」は、データ同士の関連性や、その意味について考察。ケアの方向性の確認に活用している。

社会福祉法人鈴鹿福祉会

顕著な差に注目

同法人は鈴鹿市で、特養、デイサービス、居宅介護支援事業所などを運営している。特養は、従前より職員にとって働きやすい環境づくりに努めてきた。特に、センサーやICT記録など、テクノロジーは積極的に取り入れている。

LIFEへは5月にデータを提出。6月に国平均とホームとで明らかな差が生じていることが目に付いた。そこで、認知症診断の有無についてのデータを見たところ、認知症「有り」の割合が75%（全国平均64%）であった。認知症者の割合の多さが介護度を押し上げていると考察した。

意思疎通の項目では、自分から挨拶、話しかける割合と、BIと45%（全国平均25%）の合計点が全国平均よりも高かった。

これらは「認知症の割合は高いが行動心理症状は見られていない」ということを表していると服部施設長は考え、施設のケアの方針を、「基本的な認知症ケアの徹底と定め、それを実施していった。

データの質影響

一方で、以前より力を入れて取り組んでいた栄養状態の改善では、「低栄養状態のリスクレベル」が高く該当する入居者が28%と全国平均（14%）を大きく上回っていた。低栄養リスクは、必要栄養量、提供栄養量、食事摂取量、血清アルブミン値などに基づき算出される。そこで、全ったら、職員の取り組みが正当に評価されず、食指が増す可能性があった。

服部施設長は、「今後も、このようなデータ分析のポイント、活用方法などを、セミナーなど様々な場面で発信していきます」と語った。

関連性読み解く

FB分析の過程（低栄養リスク）

必要栄養量（キロカロリー）

	全国	ホーム
エネルギー	1192	1213

食事摂取量（%）

全国	ホーム
89	88

提供栄養量（キロカロリー）

	全国	ホーム
エネルギー	1303	1439

①大きな差は見られない

血清アルブミン値有無

	全国	ホーム
有	57%	100%

②上記の数値に大きな差

ホームの低栄養リスク再計算前と後（%）

	前	後
低	26	37
中	46	58
高	28	5

③アルブミン値を除外、再計算

2022.1 三重県･三重県社会福祉協議会
「みえ働きやすい介護職場取組宣言事業所」取組紹介集



2022.2 三重県老人福祉施設協会
広報誌「みえ老施協 vol.72」掲載



2022.3 株式会社ジェイテクト様　ホームページ
(協力:N&Fﾃｸﾉｻｰﾋﾞｽ株式会社様)
「J-PAS fleairy 導入・体験者インタビュー」掲載

JTEKT J-PAS fleairy

ABOUT ▸ J-PAS fleairyとは　KNOW MORE ▸ もっと知る　INTRODUCE ▸ 導入する　PURCHASED ▸ 購入された方へ

－田中様の現在の業務内容を教えて頂けますか

主に入浴介助です。他にも食事介助やおむつ交換をしております。
※田中様は鈴鹿福祉会様で９年のキャリアをお持ちとのことで、上記以外にもオールマイティにご活躍されております。



田中様（左）原田様（右）

－導入前に抱えていた課題、選定に至る経緯を教えて頂けますか

法人としては以前から装着型のロボットを導入し、使用をしておりました。

今回、販売店様からフレアリーのお話を頂き、試してみたところ、職員からの評価もとてもよく、使用感も他のロボットに比べて全然違いました。
着脱も簡単、体の負担にもならない。お風呂場ではどうしても介助が必要な場面が多いのですが、フレアリーはお風呂場でも使用できるということがとても良かったんです。

今までの装着型ロボットは、一日中着けていても負担を感じないものがありませんでした。でもフレアリーはずっと着けていられます。

フレアリーは日常的にずっとつけていても、介助以外のお仕事もしやすくて。
フレアリーは日常生活で必要となる動作（しゃがむ、座る、歩く）などもしやすいことで、一日中着用していられますから、着けたり外したりの手間を減らせることも大きな魅力で選定の決め手となりました。



2022.3.31 CFロボタス様　ホームページ
「導入事例【J-PAS　fleairy①】」掲載

Robo+　アシストスーツ一覧から探す　特集&コラ

ホーム > NEWS >

導入事例【J-PAS fleairy①】

NEWS　導入事例をみる　2022年3月31日

「これいいね！と女性や年配スタッフの救世主に」

これまでの装着型スーツのイメージを覆すほどの使用感が導入の決め手に！



鈴鹿グリーンホーム様

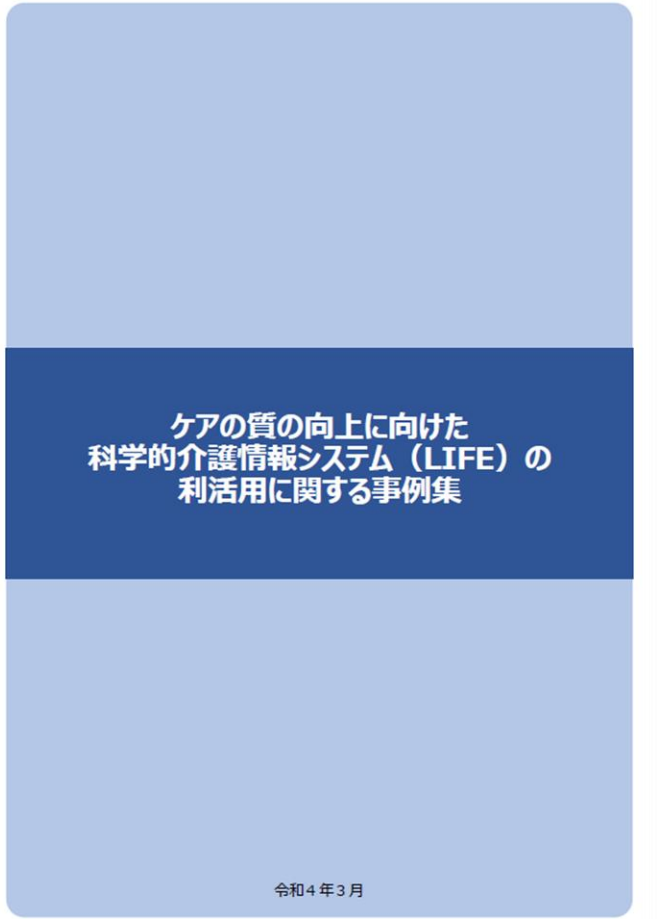
特別養護老人ホーム

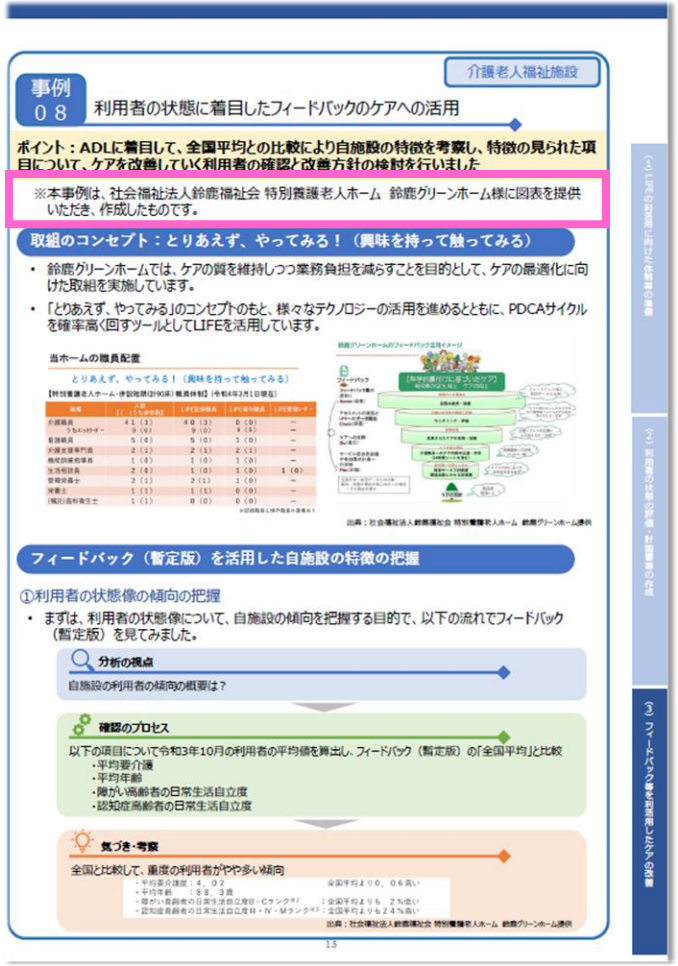
お悩み
・大柄な人の入浴介助で負担が大きい
・中腰姿勢が続く作業で腰への負担が大きい

業務内容
入浴介助
ベッド上での排泄支援やシーツ交換
移乗介助

事例提供：株式会社ジェイテクト様

2022.3 厚生労働省ホームページ
「ケアの質の向上に向けた科学的介護情報システム（LIFE）利活用に関する事例集」
当ホームの事例が２例（事例０８・１０）掲載







2022.4 シルバー産業新聞(4月10日号)掲載
「LIFE様式はケアプラン改善の重要ツール」



シルバー産業新聞　2022年（令和4年）4月10日（日曜日）　（16）

トピックス

三重県鈴鹿市

LIFE様式はケアプラン改善の重要ツール

鈴鹿グリーンホーム

三重県鈴鹿市の「鈴鹿グリーンホーム」（社会福祉法人鈴鹿福祉会）は、定員80人、全室個室のユニット型特養、科学的介護情報システム（LIFE）へのデータ提出は、昨年4月から取り組んでいる。得られるフィードバック情報は暫定版だが、同施設ではその情報を自施設の状況と比較することで、ケアの現状把握や改善につなげるための基礎データとしているまた、心身状態の改善だけを目指すのではなく、本人が望む生活の実現を同時に図り、自立支援とQOLの両立を目指している。

施設のある地域は、市内でも特に少子高齢化が進み、介護人材の確保が一層厳しい状況だ。そこで、LIFEの取り組みやICT・介護ロボットの活用などで、人材不足への対処とケアの質向上を図っている。

デイサービスや単独型ショートなども併設

服部昭博施設長（右）と生活相談員の原田崇史さん

暫定版データもしっかり活用

同施設では、LIFEが始まる5年ほど前から、施設ケアの評価指標を想定し準備を進めてきた。CHASEの運用が始まった際に、提出データが含まれる計画書など様式作成を担う看護師や管理栄養士、ケアマネジャーを採用し、業務記録システムのベンダーに協力を得て、データ入力・提出がしやすいシステムの開発にも取り組んだ。今では、専門職がLIFEの様式を作り、フロア職員が夜勤前のすき間時間にLIFEのデータ入力を行っている。

各居室のシルエットセンサーで起き上がりや離床などを検知。記録システムと連動させ、管理できる

ナースコールは、シート型センサーの付属機能を活用

には、現場から落胆の声も少なくない。しかしグリーンホームでは、各項目の該当割合を全国と自施設で比較し、ケアの現状把握と改善に取り組んでいる。

例えば、昨年10月サービス分フィードバックのADL関連項目で、「排便コントロール」と「排尿コントロール」を見ると、全国平均で該当項目とも「全介助」59%「一部介助」30～31%、「自立」10%と内訳が同じだった。一方、同施設では排便の全介助は43%、排尿の全介助は55%など、排便・排尿ともに自立度が異なっていた。全国平均では、排便・排尿それぞれ個別の状態把握や支援に課題がある可能性も考えられる一方で、「当施設の職員は、ご利用者の排便・排尿それぞれの機能を把握し、個別に支援できていることがわかった」と服部施設長は話す。

生活ベースの支援を重視

服部施設長は「自分は歯科衛生士なので、まず利用者の口腔栄養機能の維持・向上などに意識が向く。しかし、この施設は生活の場であり、人生の最終年に、ご本人に負担をかける過各もある状態改善を推進するだけではなく、そのうえで、その人らしい生活を実現するための支援も図り、自立支援とQOL向上の両立を目指している」と話す。

その方針でケア改善を図るため、各利用者のケアプランに位置づけられた支援内容を、「興味・関心チェックシート」「自立支援促進に関する評価・支援計画書」などのLIFEのデータ提出様式などと照らし合わせながら、見直していく。

例えば、「興味・関心チェックシート」で「本人が『している』こと」「してみたい」興味がある」生活行為に対する支援が、ケアプランに位置づけられているか確認する。「できていないこと」の支援が位置づけられていても、今できること・したいことについては、実際は援していても、ケアプランに書かれていない場合もある」と原田施設長。これも明示するとともに、よりその人のQOL向上につながるケアを目指す。

利用者の状況と支援方針を合致

同施設では、利用者への排泄ケアが、それぞれの身体状況に合っているか確認するため、科学的介護推進体制加算の様式に記載の各人のADL各項目を参照した。すると、移乗と歩行が全介助の人はおむつがベッドでの対応、一部介助の人は日中トイレ使用などで、ほぼADL拡大の支援ができていることがわかった。

さらに、パッド使用でトイレが使えていない利用者では、歩行は全介助だが食事と移乗、整容が一部介助だったことから握力や座位の可動域などに残存能力があり、ここを補えばトイレへ誘導・排泄できる可能性があると判断し、排せつ支援加算Ⅱ・Ⅲの算定へ向け、トイレ介助に向けた支援を検討した。ただし、「その利用者の『興味・関心チェックシート』には、『自分でトイレに行く』の項目にチェックがなかったため、無理強いはせず、職員が『トイレを使ってみませんか？』などと呼びかけ、意思確認しながら支援することにした」と生活相談員の原田崇史さんは話す。

「LIFE関連の様式の内容を確認すれば、口腔・栄養状態、ADL、移乗など、利用者一人ひとりの心身状況をしっかり把握でき、ケアプランの改善に繋げられ、強固なアセスメントツールになる」と原田施設長は話す。同施設では、人員要件を満たせず現状算定できない加算でも様式の作成を行い、いつでも算定可能できるようにする同時に、ケア見直しの基礎データとしても活用している。

ICTも有効活用

同施設では、様々な介護ロボットやICT機器も積極的に活用する。あるユニットでは、各居室にシルエットセンサーを設置、起きがりや端座位、立ち上がりを検知すると、職員のスマホに通知し、ベッド上の動きを確認できる。同時に、離床やベッド上の体動などを検知するシート型センサーも使う。このセンサーには、ナースコール機能が付属していて、容易にコール設置を導入できることから、シルエットセンサーと併用している。同施設では、各機器の特長をうまく組み合わせて、機能を最大限に活用している。

センサーを設置した居室

(参考)当ホーム LIFEフィードバック活用動画ppt資料
(2022.4.20：公益社団法人全国老人福祉施設協議会ホームページに当ホームのLIFE活用取組動画が掲載(会員専用ﾍﾟｰｼﾞ))



「ADL」項目に着目した個別ケアへの活用事例

令和３年１０月サービス提供分　LIFEフィードバック（暫定版）「ADL（割合・平均値）」

		全国平均	当ホーム	差異
食事	全介助（0）	29%	25%	4%
	一部介助（5）	30%	42%	▲12%
	自立（10）	41%	31%	10%
椅子とベッド間の移乗	全介助（0）	42%	27%	15%
	座れるが移れない（5）	21%	19%	2%
	監視下（10）	24%	36%	▲12%
	自立（15）	13%	17%	▲4%
整容	全介助（0）	52%	35%	17%
	一部介助（5）	31%	27%	4%
	自立（10）	17%	38%	▲21%
トイレ動作	全介助（0）	55%	47%	8%
	一部介助（5）	36%	44%	▲8%
	自立（10）	9%	9%	0%
入浴	全介助（0）	66%	49%	17%
	一部介助（5）	32%	51%	▲19%
	自立（10）	2%	0%	2%
平地歩行	全介助（0）	62%	53%	9%
	車いす操作が可能（5）	21%	28%	▲7%
	歩行器等（10）	11%	9%	2%
	自立（15）	6%	11%	▲5%

		全国平均	当ホーム	差異
平地歩行	全介助（0）	62%	53%	9%
	車いす操作が可能（5）	21%	28%	▲7%
	歩行器等（10）	11%	9%	2%
	自立（15）	6%	11%	▲5%
階段昇降	全介助（0）	90%	100%	▲10%
	一部介助（5）	9%	0%	9%
	自立（10）	1%	0%	1%
更衣	全介助（0）	58%	52%	6%
	一部介助（5）	35%	36%	▲1%
	自立（10）	7%	12%	▲5%
排便ｺﾝﾄﾛｰﾙ	全介助（0）	59%	43%	16%
	一部介助（5）	31%	34%	▲3%
	自立（10）	10%	23%	▲13%
排尿ｺﾝﾄﾛｰﾙ	全介助（0）	59%	55%	4%
	一部介助（5）	30%	40%	▲10%
	自立（10）	10%	5%	5%
合計点	80－100	4%	4%	0%
	55－ 75	13%	22%	▲9%
	30－ 50	25%	26%	▲1%
	0－ 25	59%	48%	11%

「ADL」項目に着目した個別ケアへの活用事例

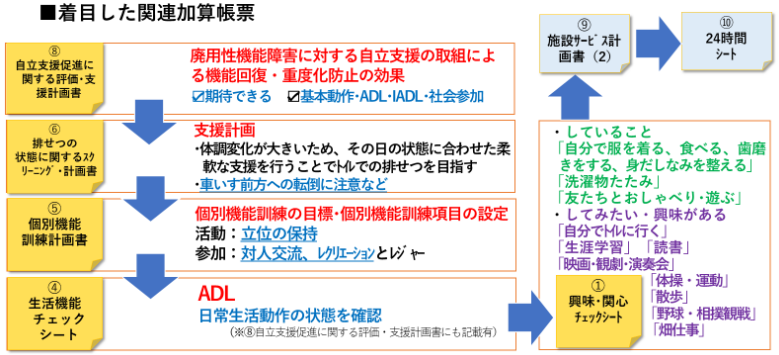
「排せつのコントロール」と「排せつ方法」

	トイレでの排せつ（日中）　11名			おむつ又はベッド上でパット交換（日中）　6名		
	自立等（10）	一部介助（5）	全介助（0）	自立（10）	一部介助（5）	全介助（0）
排便ｺﾝﾄﾛｰﾙ	AGJKMP	CHINQ				BDEFLO
排尿ｺﾝﾄﾛｰﾙ	AG　P	CHIJKMNQ				BDEFLO

当ホームスタッフの「経験」と「感覚」→個別ケアをきちんと実施していることがわかった！

LIFE関連加算帳票等に着目したケアプランへの活用事例

■着目した関連加算帳票



2022.3 三重県民の日
「県民フラワープロジェクト」協力
2022.4 イベント出席





2022.4 N&Fﾃｸﾉｻｰﾋﾞｽ株式会社様
「Webセミナー 介護品質向上と業務負担軽減の同時実現」
当会ケアスタッフのインタビュー動画配信



導入事例紹介動画(YouTube)

2022.6 フルノシステムズ株式会社様
「ショートステイ翠風における無線LANシステムの活用事例」

FURUNO SYSTEMS

Wireless Network Solution

無線LANの介護現場 事例

Wireless Network Solution UNIFAS ACERA

介護施設 × 無線LAN

鈴鹿グリーンホーム様

ICT機器や介護ロボットを活用した最先端の介護現場づくり

~利用者の生活の質向上とスタッフの業務負担軽減の基盤となる無線LAN~



▲ 鈴鹿グリーンホーム 翠風

無線ネットワーク導入の背景

鈴鹿グリーンホームは、三重県鈴鹿市にある特別養護老人ホームです。1993年の開設以来、特別養護老人ホームをはじめ、ショートステイやデイサービスなど、地域に根差した介護福祉サービスを提供しています。

同施設の最大の特徴は、ICT機器や介護ロボットを活用した最先端の介護現場づくりを進めていることです。地域の高齢化の進行や働き手となる現役世代の減少といった人口動態の課題への対策として、2016年より介護ロボットの導入にいち早く着手しました。今では見守り支援ロボットや排せつ予測ロボットなど、合計11種類の介護ロボットが稼働しています。

ICT機器や介護ロボットの活用により、利用者の状況や要望をセンサーで得た情報から瞬時に把握できるため、居室への訪問頻度の抑制や排せつのタイミングが的確につかめるといったメリットが生まれています。利用者のストレス軽減や心地よさの向上はもちろん、現場で働く介護スタッフの負担軽減にもつながっています。

介護ロボットから得た情報は、スタッフが携帯しているタブレット端末やスマートフォンを通して集約される仕組みとなっており、介護ロボットと各種ICT端末を組み合わせた鈴鹿グリーンホーム独自のシステムを構築して運用しています。各種機器をつなぐためのネットワーク基盤として、安定した無線LANの整備が必須となり、フルノシステムズの実務用無線LANアクセスポイント「ACERA（アセラ）」を採用しました。現在、本棟と新棟に合計40台のACERAを設置し、日々の介護業務を支え続けています。

無線LAN導入における3つの課題

●その1.ICT機器や介護ロボットを用いたシステムの安定稼働

ICT機器や介護ロボットなど各種機器を組み合わせ、独自のシステム構築を実践している鈴鹿グリーンホーム。介護の現場では最適かつ早急な対応が求められることから、システムの稼働を止めない安定したネットワーク環境の整備が必須でした。

●その2.利用者の方々の生活品質向上とストレス軽減

利用者の健康状態を把握するための体動センサー（安心ひつじぬ）や、ベッドからの起床やはみだし、転倒などの動作を検知する見守りシステム（Neos+Care）などの介護ロボットを各部屋に配備することで、スタッフの介入頻度を抑えて必要なときだけ利用者の様子を見にいくことが可能となりました。リアルタイムで通知される各センサーの情報伝達を、ACERAの通信が支えています。

●その3.クラウドサーバによるシステム運用

ICT機器と介護ロボットを組み合わせたシステムを構築するにあたり、自前のサーバを持たずにクラウドサーバで運用したいと希望していました。クラウド上での円滑なシステム運用のためにも、施設内のネットワーク品質の高度化は必須条件でした。ACERAの設置によりクラウドサーバの運用が可能になったことで、最新技術の領域につながっていくとともに、新たな機器の追加実装などシステムの更新についても整備しやすくなりました。

システム概要

ICTの活用により利用者のストレス軽減や介護スタッフの業務効率化を実現

◆介護ロボットから得た見守り支援情報をリアルタイムで端末に通知

無線LANの導入整備により、介護ロボットや各種センサーからの情報をクラウド上に集約できます。たとえばベッドマットレスの下に敷くように設置した体動センサー（安心ひつじぬ）では、利用者の呼吸や心拍、ベッド上の座位などを把握できます。天井近くの壁面に設置した見守りシステム（Neos+Care）は、利用者の起床や方がーの転倒を検知し通知してくれます。また、排せつ予測ロボットは尿取パに貼ることで、排尿の尿量を把握できます。これらのセンサーから得た情報は、無線LANを介してスタッフが所持している端末にリアルタイムで通知され確認できるため、適切なタイミングで対処ができるようになっています。



▲「Neos+Care」の各表示の情報一覧

▲「安心ひつじぬ」の各利用者の情報一覧

◆スタッフの業務効率の向上に貢献

無線LANが各フロアをカバーしているため、スタッフは施設内の至る所でICT端末を活用できます。スタッフが所持しているノートPCやタブレット端末には介護ソフトがインストールされており、入力した各種情報をクラウドサーバに一元化できます。また、デジタル体温計や血圧計で測定した数値も介護ソフトに自動的に記録されるため、記録や入力業務の負担軽減に役立っています。業務の合理化や効率化といった点でも、無線LANは多大な役割を担っています。



鈴鹿グリーンホーム 翠風 廊下



鈴鹿グリーンホーム 翠風 オフィス





お客様の声

鈴鹿グリーンホームでは、利用者の方々の生活の質を高める手段として、ICT機器や介護ロボットといったテクノロジーを積極的に導入してきました。テクノロジーの導入に着手した背景には、これから訪れる地域の人口動態の課題がありました。今後20年で、鈴鹿市の生産年齢人口は約2割減ると言われており、当施設の職員数もそれに比例すると予想されます。一方で、要介護リスクを抱える75歳以上の人口は約35%増えるとも言われています。そのような課題に対して真剣に向き合い早期に手を打たねば、介護の現場は成り立たなくなり、介護を必要とする地域の方々に満足のいくケアをお届けできなくなります。

当会では、利用者の方々の自立支援に力を入れて取り組んでいます。たとえばデイサービスでは、各種トレーニング機器やICT機器を活用したリハビリテーションやエクササイズの仕組みにより、各個人の能力をできるだけ生かした健康促進を図ります。それにより介護予防につながるサイクルを構築し、健康寿命を延ばすお手伝いをしていく――。そして地域の皆さんに介護サービスが行き届くようにすることが、私たちの目標です。

働き手となる世代の人口が減少する中、人手に頼るのは難しい状況です。その課題をアシストしてくれるのがICTであり、テクノロジーを活用して事業を継続し、良いケアを提供していきたいと考えています。サービスの質は落とさず、並行して職員の仕事を楽にしていく――。両方の実現は矛盾するようですが、そのためにもテクノロジーが必要です。

システムの稼働を支えるネットワーク環境については、サービスを展開していく上での「基盤」と捉え、機器やアプリ、デバイスなどは「モジュール」として基盤の上に追加実装していくイメージを持っています。これらを実現していくためにも、フルノシステムズのアクセスポイントは最も重要なツールだと考えています。



社会福祉法人
鈴鹿福祉会
鈴鹿グリーンホーム

理事・施設長
服部 昭博 様 （右）

生活相談員
原田 崇史 様 （中央）

ユニットリーダー
方田 太志 様 （左）

【2022年4月取材】

USER PROFILE

社会福祉法人 鈴鹿福祉会
鈴鹿グリーンホーム

社会福祉法人 鈴鹿福祉会
鈴鹿グリーンホーム

●理事長 ： 中村 敏
●施設長 ： 服部 昭博
●所在地 ： 三重県鈴鹿市深溝町2956番地
●創 立 ： 1992(平成4)年
●鈴鹿グリーンホーム開設 ： 1993(平成5)年
●ホームページ：https://suzuka-greenhome.jp/

お問い合せは

株式会社フルノシステムズ

本社 〒130-0026 東京都墨田区両国 3-25-5 JEI 両国ビル

TEL：03-5600-5111 (代)

www.furunosystems.co.jp

※本カタログに記載された会社名・製品名は、一般に各社の登録または登録商標です。

2022.4 ver.1

2022.9 小林史明代議士インスタライブ
「デジタル×高齢者福祉」参加



2022.10　株式会社ジェイテクト様YouTube
「【導入事例】社会福祉法人 鈴鹿福祉会　鈴鹿グリーンホーム様でのJ-PAS fleairyご使用の様子を撮影させていただきました」

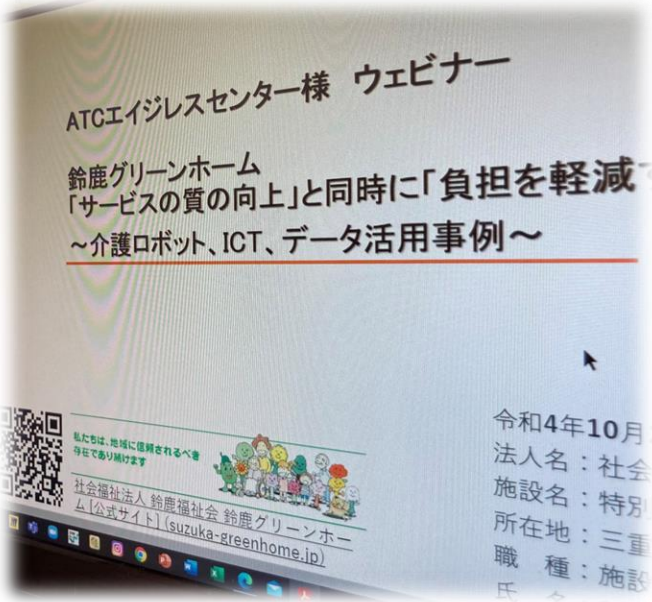




2022.11　ATCエイジレスセンター株式会社様、株式会社シルバー産業新聞社様ウェビナー
『介護ロボット・ICTの利活用』登壇







2022.11 福井県坂井地区広域連合議会様 視察
「介護ロボット･ICTに利活用状況、健康寿命延伸の取組」など









2022.11 三県社会福祉協議会（三重県委託事業）
「みえ福祉･介護フェア2022」参画（三重県老人福祉施設協会 会員として（5年連続参画））

三重テレビ放送「NEWSウィズ」で報道【於：ｲｵﾝﾓｰﾙ津南】




坂井地区広域連合議会議員視察研修
（1月15日、16日）

さかいクリーンセンターからのお知らせ

坂井地区広域連合様広報誌に掲載(2023.4)

2022.12 高齢者住宅新聞社様
第12回介護経営サミット(オンライン)登壇
「LIFE算定とフィードバック有効活用その業務時間を捻出するICT活用」

12月8日 (木) 13:15～14:15

【10】ＬＩＦＥ算定とフィードバック有効活用その業務時間を捻出するＩＣＴ活用
～とりあえず、やってみる（トライ＆エラー）～



社会福祉法人鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム　服部昭博施設長
ブルーオーシャンシステム　カスタマーサービス部 岡本 健治部長



試行も合わせて２年半ＬＩＦＥに取り組み、そのデータを活用を独自に進めて来た現状と適切な評価や帳票作成の時間を捻出しているＩＣＴ活用の事例を紹介します。

社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム　Voxela 歳を重ねる喜びへ　Blue Ocean System

2022.12 株式会社ジェイテクト様
「広報素材にかかるインタビュー・撮影」



2022.1 公益社団法人全国老人福祉施設協議会
「第1回全国老人福祉施設大会・研究会議～JSフェスティバル栃木～徹底生討論会」登壇



2022.12 テクノエイド協会三重支部様



「みえ福祉用具フォーラム2022」において事例報告（「当会における介護現場革新について ～介護サービスの質の向上と同時にスタッフの負担軽減を図る～」）

2022.2 ユマニテク医療福祉大学校様
「オープンキャンパス」（ケアテックの展示・体験）



2023.1 シルバー産業新聞様
「科学的介護は現場での工夫・考察の中に」



シルバー産業新聞　2023年（令和5年）1月10日（火曜日）　（18）

トピックス　データを「見る力」育む

鈴鹿グリーンホーム

科学的介護は現場での工夫・考察の中に

2021年4月に始まった科学的介護情報システム「LIFE」は、定期的に利用者に関する情報を収集・解析することで、利用者・事業所のフィードバック票を返し、その内容に沿ったケアを実践するPDCAサイクル構築を目指している。ただ、フィードバックの実施状況は、一部加算の事業者に関するものに限られ、利用者に関するものはなく、導入している、そうした中、特別養護老人ホーム「鈴鹿グリーンホーム」（三重県鈴鹿市、服部司理事長）ではPDCAサイクルが機能する組織づくりを進め、自事業所内で蓄積した最大限データを活用することで、質の高いケアにつなげようとしている。この取り組みは、厚生労働省作成の「ケアの質の向上に向けた科学的介護情報システム（LIFE）の利活用に関する事例集」にも事例掲載されている。

鈴鹿グリーンホームの取り組みの特長は、フィードバックデータが揃わない現状であっても、今あるデータでできることを探る考え方。内容については、本紙21年11月号本欄でお掲載したが、1年経過する中で、より細かい分析に基づいたケア改善が行われていた。

自施設だと把握できる「自立支援に向けた支援集団」について、全国平均との比較で自施設の特徴を考察し、気づいた改善点・着眼点について職員間でディスカッションを行い、理解を深めようとしている。

BMI良好でも低栄養リスク？

たとえば、同施設では誤嚥改善や摂食嚥下に注力してきたことから、フィードバックの結果は「BMIは全国平均より若干良好」となったものの、「低栄養状態は若干リスクの人が全国平均より多い」という結果になってしまった。

不思議に思って最取書について確認したところ、「全国平均並み」となったほか、「必要摂取量より多くの栄養量の摂取ができており、食べる喜び」という考察する結果となったという。

そこで管理栄養士らの関係者と共に、仮説をもってディスカッションしたところ、血清アルブミン値の計測を全員にしていることが関係ではないか、という結論に至った。

つまり、全国平均ではアルブミン計測は50％とされているため、測定者の多い同施設では高リスク者数が多くなっているということだった。実際、血清アルブミン値の御定者平均では、全国の3・0に対して同施設は3・2と高かった。

服部氏は「BMIでは見えづらい、内面の低栄養状態の人が多いことが分かった」と、一定条件の結果に振り分けされ、現場の専門職らにまるケアに自信を持てるようになったという。

日常生活自立度に着目しケア見直し

ほかにも、平均要介護度は4・02と特養の全国平均より0・06高いものの、「障がい高齢者の日常生活自立度B・Cランク」は少ない。ただし、「認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・M」は24％高いことがフィードバックからわかった。

この意味について「絞じて自立した高齢者が多いものの、認知症高齢者の割合が多いとが全体の介護度を引き上げているのではないか」と、そうであれば「自立している高齢者に関しては排泄自立など、ケアの見直しの余地があるのではないか」と分析したいという。

科学的介護時代に備えた「今」の大切さ

昨年9月審査分で、介護施設では特養59・2％、老健69・4％で「科学的介護推進体制加算」が算定されるなど（LIFE「Ⅱ」を合わせた前向、受給者数ベースで、LIFEへのデータ提出に取組む）とが多くなってきた。一方でフィードバックを積極的に不一ろなため、目標とされているPDCAによる科学的介護の実現には課題いという声が多い。しかし、現時点で与えられたデータを活用しケアに活かすことは、将来の科学的介護に備え、介護施設に求められた取り組みの前哨戦として求められているという。

2023.2 三重県介護福祉士養成施設協議会様
「オンライントークで気軽に介護のお話！」登壇





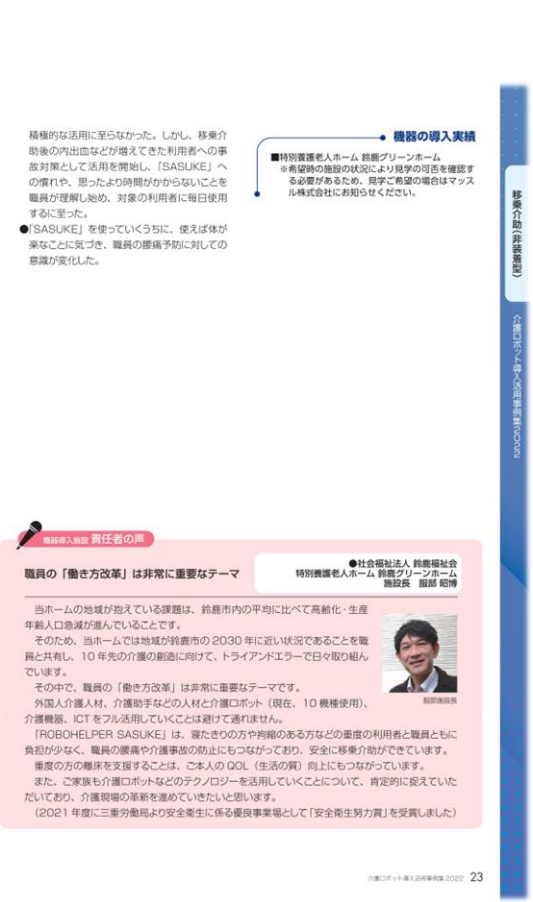
2023.2 厚生労働省　公益財団法人テクノエイド協会
「介護ロボット導入活用事例集2022」











2023.2 農林水産省ホームページ
『「野菜サポーター」の野菜消費拡大に関する取組』掲載

社会福祉法人 鈴鹿福祉会鈴鹿グリーンホーム

社会福祉法人 鈴鹿福祉会
鈴鹿グリーンホーム

- ホームページ：https://suzuka-greenhome.jp/ [外部リンク]
- 野菜消費拡大に関する取組（取組実績は適宜こちらに掲載いたします。）

○当通所介護事業所「デイサービス鈴鹿グリーンホーム」において、野菜を用いたおやつづくりを実施。野菜の消費拡大の啓発と、野菜をおやつの食材にすることで、感触良くおいしく食べられることについて啓発。

（下記リンク）当会ホームページ「グリーンホームだより」記事

2022年10月：
野菜たっぷりウインナーパン☆ | 社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム [公式サイト] [外部リンク]
ウインナーパン | 社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム [公式サイト] [外部リンク]

2022年11月：
かぼちゃまんじゅうを作りました♪ | 社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム [公式サイト] [外部リンク]
かぼちゃまんじゅう作り☆ | 社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム [公式サイト] [外部リンク]

2022年12月：
焼きドーナツ | 社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム [公式サイト] [外部リンク]
焼きドーナツ 2日目! | 社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム [公式サイト] [外部リンク]

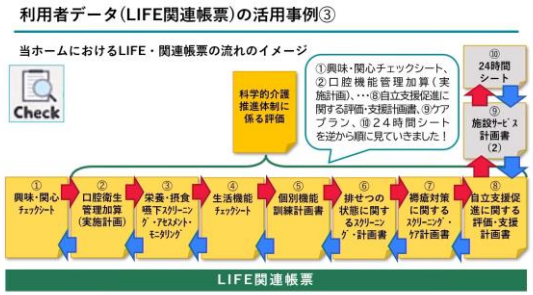
2023.3 株式会社ブルーオーシャンシステムズ様
「BOSオンラインユーザーセミナー」登壇

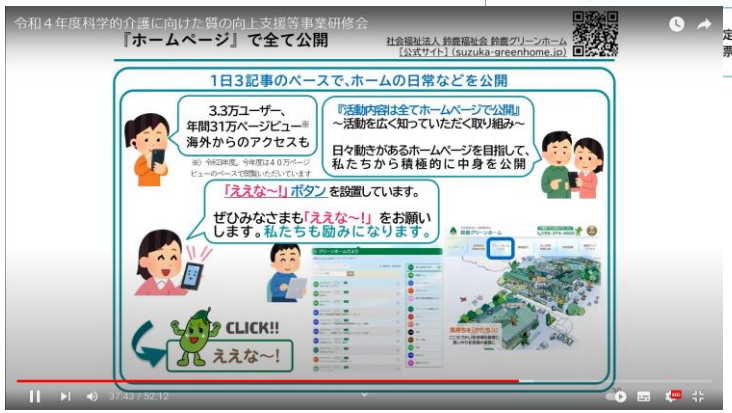




2023.4 厚生労働省ホームページ
『科学的介護情報システム（LIFE）について』
▶▶▶「３LIFEの導入、入力と評価方法、利活用のマニュアル」
▶▶▶『令和４年度科学的介護に向けた質の向上支援等事業研修会』において、当会の取組動画が公開







定の有無にかかわらず、LIFE票はすべて作成しています

17

2023.4 厚生労働省ホームページ
『第216回社会保障審議会介護給付費分科会』
▶▶▶「介護ロボット等による生産性向上の取組に関する効果測定事業 報告書」


介護ロボット等による生産性向上の取組に関する
効果測定事業　報告書

令和５年３月
厚生労働省　老健局高齢者支援課

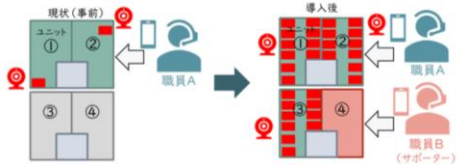
（2）　実証施設一覧

実証施設は以下のとおり。（※ 法人名 ｜ 施設名 ｜ 所在都道府県 ）

○ **夜間見守り（38施設）**

医療法人社団愛敬会｜介護老人保健施設山咲苑｜三重県
社会福祉法人室生会｜特別養護老人ホーム室生園｜奈良県
社会福祉法人愛の会｜いろり端水戸｜茨城県
社会医療法人桑名恵風会｜介護老人保健施設くわの実の郷｜新潟県
社会福祉法人光栄会｜白水園｜和歌山県
社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団｜特別養護老人ホーム芦花ホーム｜東京都
社会福祉法人誠和｜特別養護老人ホームあじさいのおか牛窓｜岡山県
医療法人財団五省会｜介護老人保健施設みどり苑｜富山県
社会福祉法人やまびこ会｜特別養護老人ホームさみた｜奈良県
医療法人社団主体会｜介護老人保健施設みえ川村老健｜三重県
社会福祉法人野の花会｜アルテンハイム鹿児島｜鹿児島県
社会福祉法人北海道社会事業協会｜介護老人保健施設ふらの｜北海道
社会福祉法人青祥会｜介護老人保健施設長浜メディケアセンター｜滋賀県
社会福祉法人弘陵福祉会｜特別養護老人ホーム六甲の館｜兵庫県
社会福祉法人無何有の郷｜特別養護老人ホーム杜の家｜福岡県
社会福祉法人ニツ井ふくし会｜特別養護老人ホームよねしろ｜秋田県
社会福祉法人円勝会｜第２シルバーコースト甲子園｜兵庫県
社会福祉法人北養会｜特別養護老人ホームさくら館｜東京都
社会福祉法人北養会｜介護老人保健施設くるみ館｜茨城県
医療法人社団婦厚堂｜介護老人保健施設博愛荘｜岩手県
社会福祉法人鈴鹿福祉会｜特別養護老人ホーム鈴鹿グリーンホーム｜三重県
社会福祉法人シルヴァーウィング｜特別養護老人ホームみさよはうす土支田｜東京都
社会福祉法人ケアネット｜特別養護老人ホームシェ・モア｜神奈川県
社会福祉法人なごや福祉施設協会｜なごやかハウス滝ノ水｜愛知県

図表 VI-3　「全床導入」での実証イメージ



※事前実証の時点で全床に機器が導入されている施設は、事後実証ではオペレーション変更のみ実施

※職員Ａ（主担当）が事後実証では、可能な限り３ユニットを対応し、職員Ｂはサポーターとして、職員Ａをサポート

図表 VI-24　全床調査の各施設における対応可能人数の増加割合（全業務時間）

	①主担当の業務時間（調査時間）[分]	②通常の担当利用者数[人]	③実証時の担当利用者数[人]	④サポーターによる「直接介護＋巡回・移動＋見守り機器の使用・確認」のサポート時間（1日平均）[分]	⑤通常の利用者1人あたり担当時間（想定）[分/人]	⑥実証時の利用者1人あたり担当時間[分/人]	⑦実証時の職員1人あたり担当可能人数[人]	⑧職員1人あたりの対応可能な利用者数の増加割合	⑨担当可能利用者数	⑩実証時の担当利用者の想定人数への達成率
計算式					①÷②	(①+④)÷③	①÷⑥	⑦÷②	②×⑧	⑦÷③
特養①	600	23	35	195.4	25.7	22.7	26.4	113.2%	26.4	75.4%
特養②	600	19	31	73.2	31.6	21.7	27.6	145.4%	27.6	89.1%
特養③	600	15	30	14.2	40.0	20.5	29.3	195.4%	29.3	97.7%
特養④	600	16	24	287.5	37.5	37.0	16.2	101.4%	16.2	67.6%
特養⑤	600	20	40	104.2	30.0	17.6	34.1	170.4%	34.1	85.2%
特養⑥	600	20	40	160.0	30.0	19.0	31.6	157.9%	31.6	78.9%
老健①	600	30	34	8.8	20.0	17.9	33.5	111.7%	33.5	98.6%
老健②	600	21	42	6	28.6	14.4	41.6	198.0%	41.6	99.0%
老健③	600	25	32	88	24.0	21.5	27.9	111.6%	27.9	87.2%
						平均（介護老人福祉施設）		147.3%		
						平均（介護老人保健施設）		140.4%		
						平均（全体）		145.0%		
						中央値（全体）		145.4%		

事前　n=65
事後：主担当　n=50、サポーター　n=47

令和4年度に協力した主な実証事業

厚生労働省　令和４年度老人保健健康増進等事業

事業名	日程	実施(委託)機関
「介護ﾛﾎﾞｯﾄ等による生産性向上の取組に関する効果測定事業」	5月～	株式会社三菱総合研究所様
「LIFEを活用した取り組み状況の把握および訪問系ｻｰﾋﾞｽ・居宅介護支援事業所におけるLIFEの活用可能性の検証に関する調査研究」（LIFEﾓﾃﾞﾙ事業）	8月～	株式会社三菱総合研究所様
「科学的介護に向けた質の向上支援等事業」	11月	株式会社三菱総合研究所様
「認知機能の評価表検証調査」		みずほﾘｻｰﾁ＆ﾃｸﾉﾛｼﾞｰｽﾞ株式会社様
「介護施設等におけるｶﾒﾗﾀｲﾌﾟの見守り機器の効果的な活用に向けた実態調査に関する実態調査研究事業」	12月	株式会社日本総合研究所様
「ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ・機能訓練、口腔、栄養の一体的取組に関する調査研究事業」		一般社団法人日本健康・栄養ｼｽﾃﾑ学会様
「介護ｻｰﾋﾞｽの質の評価指標の開発に関する調査研究」		PwCｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ合同会社様
「介護現場での自立支援促進に係る取組に関する調査」		PwCｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ合同会社様
「科学的介護に向けた質の向上支援等事業 事例収集」	12月～	株式会社三菱総合研究所様
「居宅介護支援および介護予防支援における令和3年度介護報酬改定の影響に関する調査研究事業		株式会社三菱総合研究所様
「認知症の認知機能、生活機能の評価尺度のあり方に関する調査研究事業」		みずほﾘｻｰﾁ＆ﾃｸﾉﾛｼﾞｰｽﾞ株式会社様

その他、多くの調査研究事業に協力

その他

時期	主催等	内容
2022.4	株式会社フルノシステムズ様	ICT活用にかかるネットワーク環境に関する取材(2022.4.27)
	ｺﾆｶﾐﾉﾙﾀQOLｿﾘｭｰｼｮﾝｽﾞ様	実証事業報告、見守り支援ｼｽﾃﾑ等の現場活用に関する意見交換(2022.4.19)
	社会福祉法人慈童会様	インカム、ICT、介護ロボット等の現場活用に関する意見交換、見学(2022.4.19、27)
2022.5	株式会社三菱総合研究所様	LIFEに関する意見交換(2022.5.11他)
	＆ConsultingFirm様	ICT、IoT等に関する意見交換(2022.5.17)
	株式会社ジェイテクト様	他施設へのパワーアシストスーツ「J-PAS」の運用状況説明(2022.5.18)
2022.6	栃木県老人福祉施設協議会様	「LIFE研修会(オンライン)」講師(2022.6.26)
2022.9	国際医療福祉大学様	社会福祉運営管理論(オンライン)オブザーバー(2022.9～2023.1)
	長野県高齢者福祉事業協会様	「LIFE研修会」講師(2022.9.29)
2022.10	国際医療福祉大学様	社会福祉運営管理論 (オンライン)講師(2022.10.21)
2022.11	福岡県老人福祉施設協議会 居宅介護部会様・次世代部会様	「LIFEにより求められる事業所の変化」アドバイザー登壇(2022.11.11)
	三重県社会福祉協議会様(三重県委託事業)	「みえふくし・介護フェア2022(特設Webｻｲﾄ)」映画「つむぐもの」犬童一利監督とのｵﾝﾗｲﾝ対談(2022.11.12)
	岐阜県老人福祉施設協議会様	「LIFE研修会」講師 (2022.11.30)
2022.12	島根県老人福祉施設協議会様	「LIFE研修会」講師(2022.12.12)
	九州工業大学 柴田智広教授 株式会社ジェイテクト様	パワーアシストスーツ「J-PAS fleairy」にかかる使用状況ヒアリング(2022.12.14)
	Voxela様	AI画像解析技術による事故検知・防止サービス「Voxela VCare」についてのミーティング(2022.12.27、2023.3.2、4.6)
2023.1	新潟県老人福祉施設協議会様	「LIFE研修会(オンデマンド)」講師(2023.1.17～)
2023.2	山本佐知子参議院議員	視察「介護現場でのテクノロジーの利活用」
2023.3	ヤマモリ株式会社様、三重県薬務課、 公益財団法人三重県産業支援センター様	食事提供に関する視察(2023.3.17)
	国際医療福祉大学様	「第1回若手介護経営者勉強会、意見交換会」出席、社会福祉法人善光会様を見学(2023.3.18)
	社会福祉法人昭徳会様	ICT、介護ロボット等の現場活用に関する見学(2023.3.22)

その他

時期	主催等	内容
2023.4	医療法人富田浜病院様、社会福祉法人富田浜福祉会様	デイサービスにおける機能訓練、フレイル予防に関する見学【Moffバンド・GaitBEST・HURスマートタッチなど】(2023.4.7)
	社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会様	J-PAS fleairyの体験(2023.4.11)
	社会医療法人社団陽正会様、社会福祉法人新市福祉会様	デイサービスにおける機能訓練、フレイル予防、ICT、介護ロボット、LIFEの運用状況等の見学(2023.4.18)【オンライン見学(2023.2.9)】
2023.5	社会福祉法人檸檬様	ICT導入・活用(2023.5.20)

『ホームページ』で全て公開

1日1記事以上のペースで、ホームの日常などを公開

(3.3万ユーザー・年間30万ページビュー※、海外からのアクセスも)※令和3年度

『活動内容は全てホームページで公開』

～活動を広く知っていただく取り組み～

日々動きがあるホームページを目指し、私たちから積極的に中身を公開

「ええな～!」ボタンを設置しています。

ぜひみなさまも「ええな～!」してみてください。

スタッフも励みになります。





社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム［公式サイト］
(suzuka-greenhome.jp)

SUZUKA GREENHOME

鈴鹿グリーンホーム

私たちは、地域に信頼されるべき
存在であり続けます

